

XII 地域連携

本章は「平成 26 年度 教育実践総合センター活動報告書」を引用した。

1 はじめに

茨城大学教育学部附属教育実践総合センターが、「教員養成支援部門」と「地域連携教育支援部門」の二部門に組織替えして 2 年目をむかえることになり、今年はセンターとしての本格的な成果が問われる年になりました。

「教員養成支援部門」では、教育実習の事前・事中・事後にわたる学生への教育支援活動をきめ細やかに行ってきました。特に教育実習委員会との連携を通して実習全体の企画や附属学校園をはじめとする教育実習校との連絡・調整の際には、様々な問題への対応が本センターに求められました。また各種の講習会や研修会の開催や支援活動を充実させることも大きな課題でした。今年も昨年同様に ICT 教育の講習会や優秀教員（「ティーチャー・オブ・ティーチャーズ」）による模擬授業研修会などが行われ、多くの参加者がありました。とりわけ今年度から設置された「遠隔地授業」のできる電子黒板システムを活用した授業実践では、模擬授業室で行われた授業実践を附属小学校の先生方と同時に共有することで双方向の意見交換が可能となりました。また本センター所有の iPad と電子黒板を活用した授業も実施されるなど、先進的な ICT 教育実践を行うことができました。

「地域教育支援部門」では、例年継続して行われている「学生ボランティア活動」に多くの学生を参画させることができました。今年も現在水戸市教育委員会との包括的協定に基づいた学生ボランティア活動を希望する学生の数は多く、彼らは様々な形で学校や地域社会で貴重な経験を得ることができたと思います。しかも学生たちの活動の成果は年々評価されるようになってきています。思い返しますと東日本大震災から本年度 3 月で 4 年がたちます。震災後に多くの学生がボランティア活動に精力的に取り組みましたが、そうした精神が今でも生かされていることを痛感させられます。今後とも学生ボランティア活動に対しては、本センターがしっかりとサポート支援体制を維持していくことが求められるでしょう。また、教育学部教員の地域教育への派遣や、様々な交流会や共同研究への支援活動も重要なものです。今年も茨城県教育委員会との連携活動をはじめとして様々な地域教育活動への参画事業を行ってきました。その際に本センターは、地域教育と大学との連絡・調整役を担ってきました。こうした役割はさらに充実させる必要があります。

さて以上のような諸活動を本センターは実施してまいりましたが、平成 28 年度には「全学教職センター」への統合の計画も検討されております。この全学教職センター構想では、茨城大学が総合大学として強みを生かしながらさらに充実した教員養成教育を行っていく「要」の組織となることが期待されております。その際には、教育実践総合センターでこれまでに培われてきた教員養成教育の実績や地域教育への貢献をさらに充実させていくことが求められるでしょう。来年度に向けて、本報告書が多くの関係者に読まれ、忌憚のない意見が頂けることを願ってやみません。

茨城大学教育学部附属教育実践総合センター長
小川 哲哉

2 教員養成支援部門

2-1 今年度の部門における活動概要

教員養成支援部門では、「教育実習の支援」、「模擬授業室の運用を通じた教員養成教育の支援」を柱として活動に取り組んでいます。まずはそれぞれの概要を報告します。

まず「教育実習の支援」についてですが、当学部における教育実習は、1年次から4年次までの各年次を通じた積み上げ型のカリキュラムとなっています。1年次・2年次はいわゆる「事前指導」としての講義や学校参観を中心とした内容で構成しています。3年次・4年次では学校現場における本格的な実習を行います。これらは、学部の委員会組織の一つである「教育実習委員会」が中心となって企画・運営されています。同委員会は学部内の各教室から選出された1名ずつの教員と、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校、附属幼稚園から選出された1名ずつの委員（実習主任）、4附属の校園長が主なメンバーとなりますが、センター専任教員も委員として所属しており、主に1年次・2年次における授業（実習）の企画・運営・実施と、3年次・4年次の実習に対する事前事後指導の企画・運営、実習校との連絡調整などを担当しています。

本学では、中央教育審議会・教員の資質能力向上特別部会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」における、教員養成段階における教育実習の在り方にかかわる内容を受け止めながら、この数年の内に教育実習カリキュラムの改革を進めていく予定です。当部門はその検討、改革実行の中心に立って、ますます充実した取り組みを重ねていく必要があるものと考えます。

次に「模擬授業室の運用を通じた教員養成教育の支援」についてですが、「模擬授業室」は学校における授業を模擬的に実践するための教室として、小学校・中学校の一般教室の構造をイメージ・再現した教室です。教育法などの授業において模擬授業形式の演習などに利用されています。また、授業時以外にも随時開放していますので、教育実習の準備・練習、教員採用試験に対する準備等に取り組む学生の姿も見られます。そして当室を会場とする研修会・講習会等の企画をいくつか立ち上げ、実施することができました。

また、模擬授業室と内部で繋がり、隣室として設置した「教材教具作成室」は、その機能をさらに充実させるため、教材作成用のパソコン・プリンターや、各種の文房具などを常設・常備しています。今後は、模擬授業や教材作成において有効な資料を揃えるなど、学部図書室とも連携しながら、なお一層の充実と活用促進に向けて取り組みを進めていきたいと思えます。

以上、当部門における主な取り組みの概要を述べました。

次頁より、上記の二つの柱、本年度の教育実習の実施状況およびそれらに対する支援の内容、模擬授業室の状況と本年度における活用状況などを具体的に報告します。

（文責：部門担当 昌子佳広）

2-2 平成 26 年度 教育実習の実施状況

本学部における教育実習カリキュラムは以下の通りとなっている。

履修年次	実習科目名	対象課程・コース，必修／選択の別
1 年次	教育実地研究入門 I *	全課程共通，選択科目
2 年次	教育実地研究入門 * 養護教育実地研究入門 養護実践研究 I	全課程共通，必修科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目
3 年次	初等／中等教育実地研究 I * 幼児教育実地研究 I * 養護教育実地研究 I・II 養護実践研究 II	学校教育教員養成課程，必修科目 全課程共通，選択科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目
4 年次	初等／中等教育実地研究 II * 中等教育実地研究 III (*) 中等教育実地研究 IV・V・VI * 幼児教育実地研究 II (*) 特別支援教育実地研究 特別支援教育実地研究 養護教育実地研究 III 養護実践研究 III	学校教育教員養成課程，必修科目 学校教育教員養成課程，選択科目 養護教諭養成課程・情報文化課程 ・人間環境教育課程課程，選択科目 全課程共通，選択科目 特別支援教育コース，必修科目 全課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目

このほか，他学部向けの中学校，高等学校での教育実習を実施している。

このうち，1 年次対象選択科目「教育実地研究入門 I」，2 年次対象必修科目「教育実地研究入門」については，センター専任教員が中心となって企画および実施・運営にあたった。3 年次および 4 年次の各科目（実習）については，それぞれの実習運営を統括する教育実習委員会内の各小委員会と連携しながら事前事後指導を企画・立案し，関係者との連絡・調整等にあたった。これらセンター教員が企画・運営・指導等にかかわった実習（上記表中*）について，次項よりそれぞれの概要と実施状況を報告する。

① 教育実地研究入門 I

学部における教育実習全体の導入として位置づけられる授業（実習）である。ねらいを、

- 教師のもつ使命感や教育的愛情について理解することができる。
- 児童生徒の個別的な違いや発達段階ごとの特徴などを把握することができる。
- 授業やその他の教育活動における教師のはたらきかけのあり方について考えを深めることができる。

の3点に設定し、附属小学校および附属中学校における学校（授業）参観を中心的な活動として行った。前年度までは同内容の「教育実践研究」を選択科目としていたが、科目名を改め、教員免許状取得者全員に対しての必修科目として位置づけ直した。本年度は、4月当初に教育実習カリキュラム全体のガイダンスを行うとともに、本授業の概要（ねらい、内容、日程）を説明し、履修登録を受け付けた。

授業は7月下旬にまず2回実施し、夏休み期間中を利用して、自分の母校（小学校あるいは中学校）を訪問し、施設等を見学させていただくことと、恩師（お世話になった先生）に面会しインタビューをさせていただくという、2つの課題を提示した。これは、学校という場所（空間）、施設・設備などを再認識（確認）するとともに、小学生・中学生だった自分自身の姿、当時の思い、…などを想起し、学校教育と自分自身との関わりについて考えること、また、先生という仕事に携わる人の思い・考えなどを知り、教師のもつ使命感や職業意識などについて考えを深めることをねらいとして、今年度より新たに設定したものである。学生は夏休み期間の各自の帰省等の予定にあわせ、各個人で母校および恩師に連絡をとり、依頼をして、見学及びインタビューを実施し、その内容をレポートにまとめて提出した。

9月には、3年次の教育実習期間にあわせ、各選修・コース・課程ごとに設定した期日に、附属小学校および附属中学校を訪問し、授業（先輩である教育実習生の授業を含む）参観や児童・生徒の観察を行い、参観・観察の内容に基づく討議を行った。日程や内容については、附属小中学校と連絡をとりながら企画を進め、学生向けの参観てびきや記録用のワークシートなどを作成し、実際の指導は、各選修等ごとに、各教室から選出された教員が行った。

そして、10月、12月には、3年次および4年次の教育実習事後指導に参加させ、先輩の教育実習に関わる報告を聞くことにより、来るべき自分自身の教育実習に対する意欲喚起と課題把握に繋がるようにした。

② 教育実地研究入門

3年次以降における本格的な教育実習の事前指導と位置づけられる授業（実習）である。ねらいを、

- 学校における施設・設備の状況や、児童生徒の実態等をふまえた学校経営のあり方などについて実情を理解できる。
- 教師という仕事のあり方、教師の使命感や教育的愛情などについて理解できる。
- 授業参観や教育諸活動への参加を通して児童生徒とふれ合い、関わり方の基本を身につける。
- マナーや身だしなみなど教師・大人として必要な社会性を培う。

の4点に設定し、教師のあり方や学校における仕事など、教職についての基本的な理解を得るための講義と、水戸市内の公立小中学校の教育活動参観・体験によって構成した。講義を通して、児童生徒の見方、授業の進め方、校務のあり方などについて理解し、学校現場における実地体験を通し、教職および学校教育への意識を高めていくようにした。

今年度の授業運営において前年度と変わった点は、前期において、講義の時間を一般授業と同じ時間帯に組み込んだ点である。前年度までは、前後期を通じて、教員の会議や各種講座（正課授業外）、ガイダンス等のために基本的に授業を行っていない水曜日の午後に設定していた。そのため、上記の諸行事との間で日程調整をしなければならなかったが、その必要がなくなり、安定した実施体制をとることができるようになった。

学校現場での実地体験は、前年度までと同様水曜日の午後を使って年間4回実施した。今年度は前年度よりさらに協力学校を増やし、小学校30校、中学校16校、計46校となった。これは水戸市内ほぼ全校の数にあたる。（学校の事情により訪問できなかったのはわずか3校。）水戸市の要請に応じて市内の全校に協力を依頼し、また学内の授業運営上の工夫によって市内すべての学校に訪問できる体制を整えた結果である。

授業前回を通じて、2回（2週）の講義を行い、その次の回に学校を訪問するという活動（実習）を1セットとして、これを前期（6月・7月）に2セット、後期（10月・11月）に2セット行うという形をとった。これによって、講義を通して学んだ内容を基に、学校訪問における参観・体験の観点を明確にすることができた。ただし、学校における参観・体験の具体的な内容は各学校の計画にある程度任せなければならないので、講義との関わりが十分に確保されていたかどうかには課題は残る。一方、訪問の翌週の授業では、参観した事実をもとに小グループで話し合い、ふりかえりを行う演習形式の時間をとることによって、学校における実地体験から得られた学びを、受講者間で共有し合うことができた点は、授業改革の正課として認められる。

授業の計画及び運営、また訪問学校との連絡・調整はセンター専任教員（昌子・五島）が行い、学校訪問の際は各教室から選出された教員が引率・指導を行った。学校参観を通してまとめるレポートと、講義内容に対する総括レポートによって成績を評価した。

③ 3年次・4年次における教育実習

3年次・4年次では、課程・コースごとに必修あるいは選択として、幼稚園、小学校、中

学校、高等学校、特別支援学校の各校種における教育実習を行うが、これらに対するセンター専任教員の関わり方としては以下の諸点がある。

- ・ 事前事後指導の企画・運営、連絡・調整
- ・ 「教育実習連絡打合せ会」および「教育実習運営協議会」への出席
- ・ 教育実習期間における諸相談（模擬授業室の開放・提供を含む）
- ・ 授業記録VTR撮影のコーディネートと整理・保管

事前事後指導については、教育実習委員会内の実習種別（基本実習、協力校実習、帰省実習、養護実習）ごとの各小委員会と連携しながら内容を検討し、必要に応じて外部機関との連絡・調整を図って実施した。事後指導は、全体での指導（講話等）を行った後、選修・コース等の単位に分散して学習会（報告、討議）を行うという流れとしている。分散会（学習会）での内容の大枠は共通に決め、詳細は各選修等ごとの指導を担当する教員と学生との合議によって内容が検討され実施された。また、これは1年次の「教育実践研究」の授業の一部を兼ねており、1年次生に対する報告、1年次生からの質疑と応答といった内容も、各選修等ごとの企画の中に含まれている。

今年度から大学院教育学研究科所属学生の「免許取得プログラム」による教育実習（帰省実習）も行われているので、この対象学生（院生）を集めての学習会はセンターで担当した。

また、各実習種別ごとの事後指導レポートは選修等ごとの担当者が目を通した後にセンターに送られ、書かれた内容、特に「実習中に抱えた悩み」「実習中に起きたトラブル」「大学および実習校の指導体制等に関する要望・意見」などを整理して記録に残している。

④ 「教育実習運営連絡打合せ会」・「教育実習運営協議会」

「教育実習連絡打合せ会」および「教育実習運営協議会」は、教育実習を行う附属学校園、県内公立小中学校の先生方（校長先生や、実習主任の先生）に出席していただき、大学側からの依頼・説明や、実習運営および実施に関する協議・反省等を行う場として、実習が始まる以前の6月（連絡打合せ会）と、終了後の12月（運営協議会）に開催しているものである。大学側は学部長をはじめ実習にかかわる各セクションの関係教員が出席し、また他学部の教育実習担当教員も出席する。茨城県教育委員会にもオブザーバーとしての出席を依頼し、陪席をいただいている。

本年度は、附属学校園を含めて80校（小学校28校、中学校52校）で教育実習が行われた。全課程において行われる選択の帰省（母校）実習はこの数に含まれていないので、それを含めるとおよそ130校にご協力をいただいたこととなる。

センター教員はこの2回の会議に出席し、特に6月開催の会議において実習における指導内容や評価基準などについての説明を担当した。

⑤ その他

教育実習期間（直前時期を含む）においては、学生が実習において担当する教科指導（授業）の構想（教材研究，授業計画）を中心に，実習全般にわたる諸相談への対応を行った。また，実習期間中にも「模擬授業室」を開放し，授業実習の準備・練習，教材・資料等の作成などに取り組めるようにした。

2-3 模擬授業室の活用状況

(1) 本年度における使用状況

本年度における模擬授業室の使用状況は以下の通りである。

平成 26 年度 模擬授業室使用状況（申し込みのあったもの）

月	使用者（代表）		その他	その他の内容	合計
	教員	学生			
4	7	4	8	ボランティア説明会	19
5	17	19	1		37
6	40	9	2	内留生の公開自主研修会	51
7	30	15	3	ボランティア説明会，実技演習	48
8	8	26	10	実技演習，講演会，教員免許状更新講習	44
9	8	3	0		11
10	5	11	0		16
11	22	12	0		34
12	25	10	4	内留生の公開自主研修会	39
1	19	17	0		36
2	2	7	11	教員採用前研修会，ボランティア報告会	20
3	6	3	0		9
計	189	136	39		364

*数字は件数

まず，全体の合計件数は昨年度より 80 件近く増加した。（前年度は 283 件。）模擬授業室の存在が浸透し，教員・学生を問わずひろく使用されている状況それ自体が成果として評価できる。前年度と比較した場合，全般的に学生による使用の件数が増加しているが，特に 7 月・8 月の使用が増えている。これは，教員採用試験（二次試験）において，いわゆる模擬授業，ロールプレイングなどが課される県・市があり，その対策として学生が自主的に練習を行う形で使用されたものである。また，教員による使用も安定して多くあり，各授業において模擬授業を含む演習等が盛んに行われていることがうかがわれる。

前掲の表はあくまでも事前申し込みを経た使用件数であり、それ以外の時間には特に申し込みなどを必要とせず空いている時間帯は自由に使用できるよう開放しているため、数字に表れないところで、特に学生による使用は盛んに行われている。

(2) 研修会・講習会等の開催

前頁表中にも述べた通り、センター自体やセンターが関わって実施した企画・行事等においても使用した。以下に簡単に紹介する。

- ・ICT教育に関する講習会 … 学内の教員・学生を対象として、ICT教育機器の使用方法に関わる講習や、授業等における活用の方法に関しての研修を行った。今年度は附属特別支援学校との共催とし、特別支援教育の現場におけるICT機器の活用などを含めた研修を行った。
- ・内地留学生による自主研修会 … 茨城県教育委員会より現職教員が内地留学生（委託研修生）として前後期の2回、各3ヶ月間派遣される。期間中の研修・研究活動は、それぞれの研究教科に分かれ、かつ担当教員の指導の下で個別に行われることが中心となるが、お互いの研究や日頃の実践活動の交流を意図して、自主的に研修会が企画され、模擬授業を含む形で行われた。
- ・優秀教員による公開授業研修会 … 優秀教員として文部科学省により表彰された先生、茨城県教育委員会から表彰を受けた（“Teacher of Teachers”）先生を招き、学生を生徒役とした模擬授業を公開していただいた。優れた授業を学生に実際に体験させることを目的としたものである。

これらに関する詳細は別頁に報告されているので、そちらを参照されたい。

(3) 設備の充実

今年度は、模擬授業室におけるICT機器・設備の充実を図った。

新たに導入・設置したのは、電子黒板1台と、タブレット型PC「iPad」20台である。かつ、それら電子黒板とiPadとが連携するシステムを整備した。パイオニアVCが提供する「xSync（バイシンク）」というシステムによるものである。システムについて簡単に説明すると、電子黒板（マスターPC）上でシステムを立ち上げ、個別のiPadでアプリを立ち上げてシステムにログインすると、電子黒板上に提示した画面（例えば授業において教材となる資料や、ワークシートなど）を個別のiPad端末に一斉送信することができる。そしてiPad画面ではその送信されてきた資料などを間近に見ることができ、画面上に指や電子ペンで文字などを書き込むこともできる。そのようにして書き込んだ画面、ワークシートを電子黒板（PC）に送信して大画面で共有することもできるし、複数の

i P a d から送信された画面を電子黒板上で複数表示し、個々の書き込みを比べることもできる。

この「x S y n c」については、パイオニア V C のホームページに詳しく紹介されているので参照されたい。(<http://pioneer.vcube.com/edu/solution/>) またこのシステムは学校現場にもよく導入されており、これを用いた指導事例集も刊行されている(中川他『タブレット端末で表現する協働的な学び—xSync シンクロする思考』, 2014, フォーラム A など) ので、そちらを通じて活用事例を知ることにもできる。

この同じシステムを附属小学校にも設置している。電子黒板には W E B カメラが設置されており、これもパイオニア V C の提供する「遠隔講義システム」によって、大学側と附属小学校とをネット回線を通じて繋ぎ、附属小学校で行われている授業を大学側でリアルタイムに参観することができる。テレビ会議のような形で意見交換することも可能である。一方(附属小学校・大学いずれか)の電子黒板に表示された授業資料や指導者による書き込みを、そのまま他方の電子黒板に表示させ、言わば二箇所において同時に授業を実施することも可能なシステムである。

導入初年度においてこのシステムはあまり稼働させる機会がなかったが、システムのチェックを兼ねて、大学側の模擬授業室で行われた小学校英語(外国語活動)の模擬授業を附属小学校側でこのシステムを通して参観し、授業後に相互に意見交換を行うという研修会を実施してみた。音声のやりとりなどにおいて多少の改善(特に機器面)が必要であることなどがわかったが、今後もこのシステムを利用した研修会等を計画していきたい。

また、電子黒板と i P a d のセットは、模擬授業室においてだけでなく、大学内の別の場所・教室等に移動させて使用することもできるので、大学での授業において、電子黒板単体、i P a d、また両者の連携システムの活用が進めば、授業内容・方法の活性化に繋がるであろうし、実践の検証などを含めた学校現場に提供・還元できる研究が行われるとよいと考えている。これらを通じて、次代を担う教員養成の一助となれば幸いである。



2-4 学生ボランティアが学校に活気を与えた!

教育実践総合センター 客員教授 横瀬 晴夫

教員を目指している学生を対象に実施している「教採講座」の中で、いつも学生に話していることがある。国や都道府県が求めている「教師像」は、心掛けだけで身に付くものではなく、それは体験が伴ってより身に付くものではないか、ということです。大学での教職関連の授業はもちろん、実際の学校現場見学や教育実習は、当然大切な教育活動です。そして、これらに加えて、さらに学校を、先生を、児童生徒を、保護者等をより知るために、学校ボランティア活動等、教育活動に関わるボランティアを積極的に求めて欲しいと、話しています。

ボランティア活動に参加した学生の声聞いてみると、ある小学校の「運動会の支援」に参加した学生は、『教育実習では体験できなかった、特別支援学級の児童との関わりを通して、児童のがんばる姿に教えられた。』とか、茨城県警の大学生サポーターを体験した学生は、『教育実習で関わる生徒の多くは、ごく普通の生徒であり、警察官と一緒にいった補導活動で出会う生徒は、学校から遊離し、態度がどこか冷めているが、話してみると普通の生徒でした。教員を目指す私にとっては得難い、考えさせられる体験でした。』という感想がありました。教員を目指す学生にとっては、まさに貴重な体験ではなかったかと思えます。

一方、ある小学校の校長先生から、「冬の学びの広場」を実施したいので、学生ボランティアを派遣してほしいとの要請がありました。4月から新採教員として教壇に立つ茨城大学生2名を含め、6名のボランティアが集り、望外の喜びであったようです。校長先生のねらいは、学生ボランティアと現職教員が「児童の学力向上」を目指して取り組むことを意図したことは言うまでもありません。職員の中には、「たった1日の学力向上対策では、不十分ではないか。」といった考えを持つ教員もいたという。しかし、校長先生は、学校という湖に一石を投じたのです。

当日、学生ボランティアと職員の打ち合わせを見ていると、先輩教員として学生に、詳しく、的確に、わかりやすく指導方法等を教える様子が見られ、実際の授業では、子どもたちと年の近い学生たちが嬉々として教える姿があったそうです。

現職教員もいつにもまして、自信に溢れた声で児童に指導したり、学生に支援している様子が見られたとのことでありました。黙々と問題を解き、鉛筆の走る音しか聞こえない教室にも活気に満ちた雰囲気があったとのことです。4コマの授業を行い、休み時間ごとに学生に声をかけたり、学生が担任に指導を受けたりする姿があり、どの学級の児童もうれしそうであり、真剣に取り組んだ「冬の学びの広場」だったようです。

この学校は、一番若い教員が40歳という平均年齢の高い学校であり、現職教員の豊かな経験やキャリアを教える場面は少なく、ボランティアで集まった教員を目指す学生に、先生たちが何かを伝承することができた喜びを感じているように見えたそうです。学生が帰るときには、誰も声をかけなくても、全職員が玄関で学生を見送っていたという姿にも、学生ボランティアと現職教員との協働が現場の先生方に大きな刺激となったことは間違いないと、校長先生は感じたそうです。3学期が始まり、たった1日の「冬の学びの広場」、そして、学生ボランティアが学校の雰囲気を先生方の意識を替えつつあるとのことでした。

蛇足ながら、その後に実施された県学力診断のためのテストでは、昨年度と比較して、平均正答率が4年生で2教科、5年生・6年生がそれぞれ3教科アップしたとのことである。

2-5 教員スタート前研修を終えて

去る 2 月 1 2 日（木）10:30～12:30、模擬授業室において、教員スタート前研修会を開催しました。教育実践総合センターでは、一昨年度から教員採用内定者を対象に、教壇に立つ前の様々な不安や気になっていること等を自由に語り合うことで、教員としての心構えをつくることを目的に実施しています。

今年度は、茨城県・栃木県・埼玉県・新潟県の各小中学校・特別支援学校の教諭、養護教諭として採用される 13 名の学生が参加しました。どんな先生になりたいですか、と尋ねると、「子供のよさを見つけ伸ばしていける教師」、「話しかけやすい、親しみやすい先生」、「子どもたちがホットできる保健室をつくりたい」等々、夢と希望に溢れていました。

反面、「保護者や子ども、周囲の人たちの期待に応えられるだろうか」、「学級経営は大丈夫だろうか」、「本当にみんながわかるような授業ができるだろうか」、「保護者への適切な対応はできるだろうか」など、様々な不安や悩みを抱えていました。

しかしながら、自分の思いを率直に語ったり、仲間の話を聞いたり、教育実践総合センターの 2 名の小中学校経験者の体験談を聞いたりすることによって、次第に表情も柔らかくなり、「意外と抱えている悩みはみんな似ているなと思いました。悩むことも大切だが、先輩の先生などに相談して話を聞いて、行動していくことが大切だと思いました。」とか、「たくさんアドバイスをいただいて、とてもよかったです。4 月からの勤務への期待がふくらみました。」とか、「小さなことからコツコツと経験を積むことが一番大切であると思えました。」等の感想がありました。

研修会後の 13 名の表情は、「不安や悩み」よりも「期待」に変わってきたように見えました。『さあ、みんな、失敗してもいい、何事にもめげない、明るく、元気な、若者らしい爽やかな先生になれ!』とエールを送りました。



3 地域教育支援部門

3-1 教育支援ボランティア活動報告

この事業は、教育学部と水戸市教育委員会との協定にもとづく水戸市学校支援活動と、県内の教育支援を行う県内教育支援ボランティア活動の2つがあります。

今年度の水戸市学校支援活動の依頼件数は178件、派遣件数は前期募集・後期募集を併せて51件、活動延べ人数は83人です。県内教育支援ボランティアの派遣依頼数は101件、派遣件数は79件、活動人数は延べ449人となりました。二つのボランティアをあわせると532人の学生が活動しています。

県内教育支援ボランティアでは、毎年ボランティア希望の学生に対し、実践センターで水戸市社会福祉協議会のボランティア活動保険に加入し、必ず保険に加入した状態で活動を始められるようにしています。

ボランティア情報の配信では、メール配信希望の登録者数が429人にのぼっています。

平成26年度 教育支援ボランティア活動状況

区 分	支援依頼数	派遣件数	活動延べ人数
水戸市学校支援活動	178	51	83
茨城県内教育支援ボランティア	101	79	449
合 計	279	130	532

(1)水戸市学校支援活動

水戸市学校支援活動は活動が開始されてから11年が経過します。年々多くの派遣依頼希望が寄せられていますが、なかなかそれらに十分に答えられていないのが現状です。活動に参加できる学校も大学に近い地域の学校に偏りがちで、どうしても交通手段が難しい学校には参加しにくい状況になっています。

5月に行ったボランティアガイダンスには100名近い学生が参加し、関心の高さがうかがわれました。

活動の進め方は、水戸市教育委員会が市内の公立幼稚園・小学校・中学校から派遣希望をとりまとめ、前期(5月)と後期(10月)に実践センターへ募集依頼をします。実践センターでは、5月にボランティアガイダンスを行い、ボランティアに対する心構えや流れを説明し、活動にスムーズに参加できるよう指導しています。ボランティア希望の学生にはメールアドレスを登録してもらい、登録したアドレスにボランティア情報を一斉配信しています。活動終了後は水戸市教育委員会から活動証明書が発行されます。

【事業担当】

水戸市総合教育研究所 小田野 司寿男 鈴木 功 江幡 和代 石橋 恭子
茨城大学教育学部

- ・教育実践総合センター 五島 浩一 横瀬 晴夫 鯉淵 良子 小川 美穂
- ・総務係 金子 真理子

水戸市学校支援活動募集一覧

1.前期募集

<幼稚園>

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
K1	吉田が丘幼稚園	大畠祐子教頭	平成26年5月31日(雨天時:6月1日)	2	1	7:45～13:00	園行事の補助(運動会の準備、誘導等)	女希望、幼小合同運動会
K2	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年5月19日～24日(予備日:26日)	2	6	8:30～15:30	保育の支援(園児の付き添い、活動の補助)・行事の補助(競技の補助等)	幼小中合同運動会
K3	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年7月8日	2	1	8:30～15:30	保育の支援(園児の付き添い、活動の補助)・行事の補助(料理の補助等)	カレーパーティ
K4	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年7月1日	2	1	8:30～15:30	保育の支援(園児の付き添い、活動の補助)	ブルーベリー狩り
K5	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年11月6日～8日	4	3	8:30～14:00	焼き芋の準備、保育の支援、会場準備	焼き芋会(未就園児や地域との交流を含む)
K6	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年12月10日～13日	2	4	8:30～14:00	保育の補助(園児の付き添い、活動の援助等)、大道具小道具の出し入れ、発表会の援助	発表会
K7	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成26年7月2日	6	1	9:00～11:30	園行事の補助(ジャガイモ掘りの手伝い)	ジャガイモ掘り
K8	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成26年10月18日	10	1	8:00～12:00	園行事の補助(運動会の準備、競技の補助等)	内原ヘルスパーク(室内で実施)、親子運動会
K9	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成26年12月6日	6	1	8:00～12:00	園行事の補助(発表会の準備、補助等)	発表会
K10	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成26年10月28日	6	1	9:00～11:30	園行事の補助(さつまいも掘りの手伝い)	
K11	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成27年1月30日	4	1	9:00～11:30	園行事の支援(運動会の準備、競技の補助等)	
K12	城東幼稚園	笹嶋千香子教頭	平成26年5月24日	2	1	8:00～11:00	園行事の補助等(支援を要する幼児への支援等)	城東小学校との合同運動会
K13	城東幼稚園	笹嶋千香子教頭	平成26年11月1日	3	1	8:30～11:30	園行事の補助(幼児と一緒に用具の準備、競技中の安全確保、特別に支援を要する幼児の支援等)	親子スポーツ大会
K14	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年6月初旬	2	1	8:30～13:30	園外保育の引率補助	保和苑または八幡宮
K15	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年6月下旬～7月上旬	2	5	8:30～13:30	保育の補助(保育参観で発表する歌や踊りの練習等)	
K16	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年9月1日	2	1	8:30～13:30	バイオルガン見学及びびわかな保育園交流活動の引率及び保育補助	
K17	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年10月8日	2	1	8:30～13:30	園行事の補助(十三夜おにぎりパーティの保育補助)	十三夜おにぎりパーティ
K18	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年10月	2	1	8:30～14:00	園行事の補助(遠足の引率補助)	遠足
K19	緑岡幼稚園	和地久美子教頭	平成27年1月23日	4	1	8:00～11:30	園行事の補助(新入園児の1日入園保育の補助)	上靴持参
K20	緑岡幼稚園	和地久美子教頭	平成26年11月26日	1	1	8:00～13:30	保育の補助(4歳児クラス通常保育の補助)	上靴・弁当持参
K21	緑岡幼稚園	和地久美子教頭	平成26年10月18日	2	1	8:00～12:00	園行事の補助(運動会の補助)	
K22	緑岡幼稚園	和地久美子教頭	平成26年6月13日, 9月26日, 11月28日	4	3	8:00～13:30	保育の補助(未就園児への安全面への配慮、教師の保育補)	上靴・弁当持参
K23	笠原幼稚園	中村恵子園長	平成26年5月21日	3	1	8:00～14:30	園外保育の引率補助	親子遠足、日立市かみね公園(雨天時:日立市ビックセンター)
K24	笠原幼稚園	中村恵子園長	平成26年6月14日	4	1	8:30～11:30	園行事の補助(ミニ運動会の準備、競技の補助)	ミニ運動会 雨天時:遊戯室で実施
K25	笠原幼稚園	中村恵子園長	平成26年10月18日	4	1	8:30～11:30	園行事の補助(運動会競技の準備、補助)	運動会
K26	稲荷第二幼稚園	滑川玲子教頭	平成27年1月中旬	2	1	8:30～13:30	園行事の補助(もちつき会の補助)	もちつき会、男希望

<小学校>

支援活動No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
E1	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年5月中旬	4	1	未定	校外学習の引率	那珂川沿いを歩きながらの学習活動
E2	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年5月24日	10	1	8:30～16:00	学校行事の補助(運動会当日の児童の係の支援や補助)	運動会
E3	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年7月28日～8月1日	10	5	午前中	学習支援(プール学習における指導補助)	
E4	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年10月1日	2	1	8:00～16:00	学校行事の補助(1年生遠足の引率補助)	遠足
E5	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年10月9日	4	1	午前中	校外学習の引率補助(2年生町探検)	町探検
E6	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年11月28日	4	1	9:00～12:10	学校行事の補助(校外持久走大会における児童看護)	校外持久走大会
E7	見川小学校	遠藤愛美養護教諭	平成26年5月24日(雨天時:5月25日)	1	1	7:30～16:00	学校行事の補助(運動会の救護係の補助等)	
E8	見川小学校	遠藤愛美養護教諭	平成26年5月23日, 平成26年5月24日 (雨天時:5月25日)	6	1	23日:13:50～16:50 24日:7:30～16:00	学校行事の補助(運動会の準備, 競技の補助等)	24日は昼食有り ジャージ等動きやすい服装
E9	城東小学校	川井洋子教頭	平成26年7月28日～8月1日	10	5	午前中	学習指導(夏休みの算数の補習における丸付け)	
E10	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成26年5月31日	5	1	9:00～15:00	学校行事の補助(運動会での協議に使用する器具等の準備や後片付け, 児童の招集誘導, ライン引き, 放送等)	運動会
E11	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成26年7月23日～25日, 28日～29日	5	2	9:00～12:00	学習支援(プール指導補助)	水泳のできる方
E12	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成26年11月15日	5	1	9:00～15:00	学校行事の補助(模擬店・各種イベント開催に児童と活動する)	赤小まつり(雨天決行) 児童と一緒に遊べる方
E13	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成26年11月27日	3	1	9:30～12:30	学校行事の補助(審判, 伴走等)	持久走大会 できれば児童と一緒に長距離(1000m)を走れる方
E14	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成27年1月16日	3	1	9:30～12:30	学校行事の補助(審判, 回数測定等)	なわとび大会 児童と一緒に長なわとびのできる方
E15	上大野小学校	仲田昇教頭	通年	2	10	要相談	学習支援(体育授業補助)	
E16	上大野小学校	仲田昇教頭	通年	2	10	要相談	外遊び支援(休み時間に子どもと遊ぶ)	
E17	上大野小学校	仲田昇教頭	通年	2	10	要相談	学習支援(算数指導補助)	
E18	上大野小学校	仲田昇教頭	平成26年9月～10月	2	10	放課後	陸上指導支援	
E19	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成26年9月24日～10月15日	5	15	5:30～16:30	陸上指導支援	ポールスロー, ハードル, 走り幅跳び, 走り高跳び, 短距離1名ずつ
E20	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成26年6月27日	2	1	4:50～15:50	学級懇談会における児童預かり補助	
E21	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成26年11月28日	2	1	4:50～15:50	学級懇談会における児童預かり補助	
E22	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成27年3月4日	2	1	4:50～15:50	学級懇談会における児童預かり補助	
E23	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成26年9月初旬～10月中旬	7	10	要相談	陸上記録会の練習補助	専門的な技能は要しません
E24	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成26年6月初旬～平成27年2月下旬	5	10	放課後	金管部の練習補助	
E25	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成26年5月下旬～平成27年2月下旬	1	10	要相談	合唱団の練習補助	
E26	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成26年7月23日～25日	2	3	9:00～12:00	学習支援(水泳指導の支援)	雨天の時は中止 予備日:7月28日
E27	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成26年6月30日～7月4日 平成26年7月7日～7月11日	2	10	月曜:9:30～12:30 火曜:8:40～15:30 水曜:8:40～12:30 木曜:9:30～15:30 金曜:8:40～12:30	学習支援(1～6年生の水泳学習の支援)	雨天の時は中止
E28	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成26年7月23日～25日, 28日	3	4	9:00～12:00	学習支援(夏休み中における算数指導の支援)	

E29	新荘小学校	梶均教頭	平成26年6月3日～7月4日	2	10	8:40～12:10	学習支援(算数:3年～6年)	
E30	新荘小学校	梶均教頭	平成26年9月～11月	2	10	火曜:10:30～12:10 木曜:10:30～12:10	学習支援(理科:5年・6年の観察・実験)	
E31	新荘小学校	梶均教頭	平成26年9月1日～11月7日	2	10	火曜:13:45～15:30 水曜:10:30～12:10 木曜:13:45～15:30	学習支援(家庭科:5年・6年のミシンや調理)	女希望
E32	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年6月4日	4	1	8:40～11:40	校外学習の補助(生活科での安全確保補助)	
E33	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年9月29日～10月10日	10	10	15:00～17:00	陸上記録会の練習指導補助	
E34	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年5月～平成27年2月	1	10	8:30～11:30	学習支援(6年理科)	
E35	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年10月上旬, 10月中旬, 11月上旬	4	3	9:30～11:30	校外学習の引率補助(2年生活科:学区探検)	
E36	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年10月	4	10	月曜:13:30～15:30 水曜:14:30～15:30 木曜:11:30～12:10	学習支援(家庭科:ミシンの操作の補助)	女希望
E37	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年5月～	2	3	午前:要相談 火・水曜: 13:00～15:00	校外学習(生活科)の際の安全確保の手伝い, 遊びの活動の手伝い	
E38	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年10月17日	4	1	要相談	校外学習(遠足)の引率補助	アクアワールド大洗
E39	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年6月4日(雨天時:6月9日)	8	1	要相談	校外学習の引率補助(3年:学区探検)	
E40	双葉台小学校	原田良子教諭	平成26年10月, 平成27年2月	4	8	要相談	学習支援(1年体育:マット運動, 跳び箱)	
E41	酒門小学校	大津誠教諭	平成26年6月2日～7月18日(毎週水曜日)	1	5	9:00～15:00	学習支援(5・6年生理科の実験観察, 片付け)	
E42	酒門小学校	大津誠教諭	平成26年9月1日～12月19日(毎週水曜日)	1	5	9:00～15:00	学習支援(5・6年生理科の実験観察, 片付け)	
E43	酒門小学校	大津誠教諭	平成27年1月13日～3月17日(毎週水曜日)	1	5	9:00～15:00	学習支援(5・6年生理科の実験観察, 片付け)	
E44	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年7月1日～18日	2	10	8:40～12:10	学習支援(体育科ボール指導)	
E45	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年10月～12月	2	10	要相談	学習支援(2年算数:かけ算, 体育鉄棒等)	2時間程度
E46	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成27年1月～2月	2	10	要相談	学習支援(1年算数:計算技能, 体育なわとび等)	2時間程度
E47	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年6月3日, 10日, 17日, 24日 平成26年6月4日, 11日, 18日, 25日 平成26年6月5日, 12日, 20日, 27日 の12日間	2	12	火曜:10:35～11:20 水曜:11:25～12:10 13:50～14:35 木曜:11:25～12:10	学習支援(5年家庭科縫い物の補助)	
E48	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年10月29日	4	1	8:15～16:00	校外学習の引率補助(1年遠足)	県立植物園
E49	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年9月26日	4	1	8:15～16:00	校外学習の引率補助(2年遠足)	アクアワールド大洗
E50	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年9月19日	4	1	8:15～16:00	校外学習の引率補助(3年遠足)	ツインリンクもてぎ
E51	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年10月ごろ	4	1	8:15～12:10	校外実習(3年)	地域のお店
E52	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成26年9月29日～10月15日	4	10	月曜:13:30～16:00 火～金曜: 14:40～16:30	学校行事の補助(陸上記録会練習の準備と補助)	雨天中止
E53	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成26年10月10日	2	1	8:00～15:00	校外学習の引率(1年遠足)	森林公園, 女希望
E54	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成26年6月1日～平成27年2月28日	2	10	9:00～15:30	学習支援(理科の授業支援, 理科室等の環境整備)	
E55	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成26年5月下旬～9月末	2	10	5:30～17:30	吹奏楽部指導	
E56	三の丸小学校	浅野正樹教諭	平成26年5月31日(雨天時6月1日)	2	1	8:00～16:00	学校行事の補助(運動会の救護係の補助)	動きやすい服装, できたら養護教諭養成課程4年生希望
E57	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成26年5月31日(雨天時6月1日)	2	1	要相談	学校行事の補助(運動会の準備係の補助)	男希望
E58	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成26年6月～平成27年2月	2	10	3:00～13:40	休み時間における児童の遊び相手, 相談相手	男1人, 女1人希望
E59	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成26年9月16日～10月10日	3	10	5:30～17:00	陸上記録会練習の補助と指導	

E60	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年9月19日	2	1	8:00～16:00	校外学習の引率補助(3年遠足)	笠間方面、昼食代等は実費
E61	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年9月18日	3	1	8:00～16:00	校外学習の引率補助(4年遠足)	大子方面、昼食代等は実費
E62	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年9月11日	3	1	8:00～16:00	校外学習の引率補助(2年遠足)	霞ヶ浦ふれあいランド、昼食代等は実費
E63	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年9月12日	3	1	8:30～15:00	校外学習の引率補助(1年遠足)	大洗アクアワールド、昼食代等は実費
E64	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年9月24日～25日(1泊2日)	3	2	7:30～16:00	宿泊学習の引率補助(5年)	食事代等は実費 白浜少年自然の家
E65	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年11月5日	3	1	7:00～19:00	校外学習の引率補助(6年遠足)	キッザニア・国会議事堂、昼食代等は実費
E66	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年6月10日	2	1	8:30～15:00	特別支援学級校外学習の引率補助	水戸市親子スポーツのつどい、昼食代等は実費
E67	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年10月、または11月	2	1	要相談	特別支援学級校外学習の引率補助	昼食代等は実費
E68	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年5月23日	10	1	3:30～17:00	学校行事の補助(運動会前日準備)	
E69	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年5月24日	10	1	8:00～16:00	学校行事の補助(運動会:係の手伝い、準備・片付け、児童看護)	予備日:5月26日
E70	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年7月25日、28日～31日	10	5	8:30～12:00	学習支援(水泳指導の補助)	
E71	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年11月16日(雨天時:18日)	10	1	8:30～12:00	学校行事の補助(マラソン大会での伴走、児童観察等)	
E72	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年10月30日	10	1	8:30～12:00	学習支援(児童看護等)	ハミングロードハロウィーン、学生も仮装して参加してください。

<中学校>

支援活動No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
J1	見川中学校	春原孝政教頭	平成26年5月～平成27年2月まで(週1回)火1、水1、木2、金2の授業	1	10	要相談	学習支援(1年数学の授業の個別指導での支援)	
J2	見川中学校	橋本智教諭	平成26年6月～平成27年2月(週1回)月1、木5、金4の授業	2	10	要相談	学習支援(2年数学の授業の個別指導での支援)	
J3	見川中学校	五十川淳一教諭	平成26年5月～7月まで	3	10	要相談	学習支援(理科の観察・実験の準備・片付け、観察・実験の補助)	午前または午後の3～4時間程度 理科教員を目指す方希望
J4	見川中学校	五十川淳一教諭	平成26年9月～12月	3	10	要相談	学習支援(理科の観察・実験の準備・片付け、観察・実験の補助)	午前または午後の3～4時間程度 理科教員を目指す方希望
J5	見川中学校	五十川淳一教諭	平成27年1月～3月	3	10	要相談	学習支援(理科の観察・実験の準備・片付け、観察・実験の補助)	午前または午後の3～4時間程度 理科教員を目指す方希望
J6	見川中学校	小林倭人教諭	平成26年6月～7月まで(週1回～)月3、4 火3、4、5、6 水3、4、5、6 木3、4、5、6、金3、4	5	10	要相談	学習支援(技術の製作の準備・片付け、製作補助)	曜日ごとに1人希望
J7	第一中学校	松崎精一教諭	平成26年5月～平成27年2月(土曜日)	2	10	8:30～11:30	合唱部の指導補助、ピアノ伴奏と合唱指導	
J8	第一中学校	芳尾信一郎教諭	平成26年5月～平成27年2月	6	10	要相談	理科の授業の支援(観察・実験の準備、後始末等)	理科の教師を目指す方や興味・関心のある方希望
J9	第一中学校	葛西亜紀教諭	平成26年5月～平成27年2月	3	10	要相談	第1～3学年家庭科の学習支援	
J10	第一中学校	蓮見宏明教諭	平成26年5月～平成27年2月	3	10	要相談	第1～3学年英語科の学習支援	
J11	第一中学校	住谷芳教諭	平成26年5月～平成27年2月	5	10	要相談	特別支援学級在籍生徒の学習支援 生徒への個別支援(3年:英語・国語・数学、2年:英語・国語・数学等) 生徒への個別支援(3年:テスト中への支援)	支援教育について理解している方、発達障害に対する知識と理解のある方、生徒とコミュニケーションがとれる方希望
J12	第五中学校	小林毅教諭	平成26年5月22日～7月18日	2	10	8:40～15:40	学習支援(特別支援学級1～3年生、主に数学・英語)	女希望

2.後期募集

<幼稚園>

支援活動No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
K27	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年10月16日	1	1	9:00～13:00	通常保育の補助	担任出張のための保育活動全般での補助
K28	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年10月20日	1	1	9:00～13:30	通常保育の補助	担任出張のための保育活動全般での補助
K29	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成26年11月(日には未定)	1	1	9:00～13:30	通常保育の補助	担任出張のための保育活動全般での補助
K30	緑岡幼稚園	和地久美子教頭	平成27年1月29日	4	1	8:30～11:30	園行事の補助(1日入園にかかる保育補助)	女性希望
K31	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年9月26日	2	1	要相談	園行事の補助(梨狩りの付き添い、補助)	
K32	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年10月17日	3	1	要相談	園行事の補助(親子レクレーションの種目の準備、補助)	
K33	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年11月6日	3	1	要相談	園行事の補助(焼き芋会の準備、写真撮影、園児補助)	
K34	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年11月10日	2	1	要相談	園外保育の引率補助	路線バスに乗り芸術館にパイプオルガンを聞きに行き、京成で食事をして路線バスで帰る。
K35	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年11月21日	2	1	要相談	園外保育の引率補助	路線バスに乗り、消防署と歴史館に行き、常磐幼稚園との交流をして、路線バスに乗って帰る。
K36	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年12月13日	2	1	要相談	園行事の補助(発表会の衣装の着替え、準備等の補助)	
K37	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成27年1月15日	2	1	要相談	園行事の支援(音遊びの準備補助)	
K38	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成27年2月2日	2	1	要相談	園外保育の引率補助	観劇「ももたろう」を観た後、レストランで食事をして園に戻る。
K39	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成27年2月26日	2	1	要相談	園外保育の引率補助(お別れ会遠足補助)	セツ洞公園
K40	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成27年2月初旬	3	10	要相談	園行事の支援(卒園式の準備補助)	記念品作り、卒園準備
K41	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成26年9月下旬～2月	9	10	要相談	園行事の支援(お楽しみ会)	スポーツ、音楽、遊び
K42	千波幼稚園	蛭田恵子教頭	平成26年10月下旬～平成27年2月	2	15	9:00～14:00	通常保育の補助	
K43	城東幼稚園	笹嶋千香子教頭	平成26年10月18日	3	1	8:30～11:30	園行事の支援(親子スポーツ会)	用具準備、競技中の安全確保、特別に支援を要する幼児の支援
K44	寿幼稚園	桑原夏那教諭	平成26年10月(10/10,10/11以外)	2	10	要相談	園行事の支援(運動会の準備補助、幼児との遊び)	
K45	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年9月30日	3	1	8:30～14:00	園外保育の引率補助(アイススケート・ぶどう狩り・お茶体験の補助)	アイススケートのできる方希望
K46	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年10月6日	3	1	8:00～14:00	園外保育の引率補助(パイプオルガン見学の引率補助)	水戸芸術館
K47	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年10月24日	3	1	8:30～14:00	園外保育の引率補助(秋の遠足の引率補助)	森林公園方面
K48	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年10月29日	3	1	8:30～13:30	園外保育の引率補助(遠足の引率補助)	大井神社 どんぐり拾い等
K49	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年10月27日～31日	3	5	9:00～15:00	園行事の支援(ハロウィンパーティの準備・活動の補助)	未就園児との交流も含む
K50	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年10月27日～11月8日	10	10	8:30～13:00	園行事の支援(焼き芋会の運営・準備・活動の補助)	未就園児との交流も含む
K51	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年11月18日	3	1	8:30～14:00	園外保育の引率補助	安戸星公園
K52	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年12月1日～13日	5	10	9:00～15:00	園行事の支援(発表会の準備・活動の補助)	
K53	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成26年12月8日～22日	10	10	8:30～13:00	園行事の支援(クリスマスパーティの運営・準備・活動の補助)	未就園児との交流も含む
K54	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成27年2月2日	3	1	8:30～14:00	園外保育の引率補助(観劇「桃太郎」の引率補助)	県民文化センター
K55	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成27年2月3日	3	1	9:00～13:30	園行事の支援(豆まきの準備・活動の補助)	
K56	飯富幼稚園	中村広子教頭	平成27年3月2日～18日	10	10	8:30～13:00	園行事の支援(卒園式・パーティの運営の準備・活動の補	

<小学校>

支援活動No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
E73	城東小学校	横須賀邦男教諭	平成26年11月28日	4	1	8:40～12:10	学校行事の補助(校外持久走大会における児童看護)	
E74	城東小学校	横須賀邦男教諭	平成26年10月1日	2	1	8:00～15:30	校外学習の引率補助(1年生遠足の引率補助)	アクアワールド大洗
E75	城東小学校	横須賀邦男教諭	平成26年10月1日	2	1	8:00～15:30	校外学習の引率補助(2年生遠足の引率補助)	日立シビックセンター
E76	城東小学校	横須賀邦男教諭	平成26年10月2日	2	1	8:00～16:00	校外学習の引率補助(3年生遠足の引率補助)	栃木なががわ水遊園
E77	城東小学校	横須賀邦男教諭	平成26年10月2日	2	1	7:30～16:30	校外学習の引率補助(4年生遠足の引率補助)	大子茶の里公園他
E78	城東小学校	横須賀邦男教諭	平成26年10月29日	2	1	9:00～15:00	校外学習の引率補助(4年生森林・林業体験引率補助)	那珂市市民の森

E79	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成26年11月15日(雨天決行)	10	1	9:00～15:00	学校行事の補助(赤小まつりの看護)	PTAとの連携行事(模擬店、各種イベント、児童の出し物)児童や保護者とコミュニケーションのとれる方希望
E80	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成26年11月27日(雨天変更)	3	1	9:30～12:30	学校行事の補助(なわとび大会の補助)	審判、コース案内先導できれば、児童と一緒に長距離(1000m)を走れる方
E81	赤塚小学校	佐藤光央教諭	平成27年1月16日	3	1	9:30～12:30	学校行事の補助(持久走大会の補助)	審判、回数の計測等児童と一緒に長縄のできる方
E82	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成27年1月16日、23日 平成27年1月19日、26日	1	4	8:30～11:30 (1/16,1/23) 9:20～12:15 (1/19,1/26)	学習支援(1年生体育跳び箱遊びの補助)	
E83	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成26年10月14日～15日	6	2	8:30～11:30 (10/14) 8:30～12:15 (10/15)	学習支援(4年生算数そろばん学習の支援)	できれば、そろばんができる方希望
E84	下大野小学校	石川敦子教諭	平成26年10月～平成27年1月	2	10	火曜日から水曜日 10:00～12:00 14:00～15:00	学習支援(低学年音楽鍵盤ハーモニカ指導の支援)	
E85	下大野小学校	石川敦子教諭	平成26年10月～平成27年1月	2	10	火曜日から水曜日 10:00～12:00 14:00～15:00	学習支援(中学年リコーダーの指導の支援)	
E86	下大野小学校	石川敦子教諭	平成26年10月～平成27年1月	2	10	火曜日から水曜日 10:00～12:00 14:00～15:00	学習支援(高学年合奏の指導の支援)	
E87	下大野小学校	石川敦子教諭	平成26年10月～平成27年1月	2	10	火曜日から水曜日 10:00～12:00 14:00～15:00	学習支援(低学年マット、跳び箱の指導の支援)	
E88	下大野小学校	石川敦子教諭	平成26年10月～平成27年1月	2	10	火曜日から水曜日 10:00～12:00 14:00～15:00	学習支援(中学年マット、跳び箱の指導の支援)	
E89	下大野小学校	石川敦子教諭	平成26年10月～平成27年1月	2	10	火曜日から水曜日 10:00～12:00 14:00～15:00	学習支援(高学年マット、跳び箱の指導の支援)	
E90	稲荷第二小学校	小川浩司教諭	平成26年11月28日	3	1	4:50～16:00	その他(学級懇談会における児童預かり補助)	
E91	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成27年2月3日	2	1	8:30～13:00	学校行事の補助(そばうち体験・試食の補助)	
E92	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成26年10月21日～12月16日 平成27年1月12日～2月24日	1	16	3:00～13:45	休み時間(昼休み)における児童の遊び相手	2学期の雨天時:室内遊び 3学期の雨天時:体育館遊び
E93	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成26年11月21日(雨天中止)	2	1	8:30～11:30	学校行事の補助(持久走大会での計測、誘導補助)	ケーズデンキスタジアム水戸
E94	千波小学校	石井隆子教諭	平成26年11月21日	10	1	8:10～12:10	学校行事の補助(校内持久走大会の補助)	逆川緑地公園
E95	千波小学校	石井隆子教諭	平成26年12月	4	3	8:00～12:20	学習支援(1年生算数「たしざん・ひきざん」の指導の支援)	
E96	千波小学校	石井隆子教諭	平成27年1月～2月	4	5	8:10～12:10	学習支援(1年生体育「なわとび運動」の指導の支援)	
E97	吉沢小学校	戸田康明教諭	平成26年10月20日～平成27年2月27日(毎週火曜日)	1	10	3:00～13:30	学習支援(3年生の指導の支援)	曜日・時間は相談可
E98	吉沢小学校	戸田康明教諭	平成26年10月20日～平成27年2月27日(毎週木曜日)	1	10	3:00～13:30	学習支援(3年生の指導の支援)	曜日・時間は相談可
E99	吉沢小学校	戸田康明教諭	平成26年11月14日	3	1	8:30～12:00	学校行事の補助(校内持久走大会の補助)	特別支援学級(自・情)児童の併走
E100	見川小学校	遠藤愛美養護教諭	平成26年10月29日	4	1	2:30～16:00	学校行事の補助(就学時健康診断の補助)	教育学部養護教諭養成課程3年次、4年次の学生希望
E101	見川小学校	東ヶ崎順子教諭	平成26年10月20日～30日	3	9	8:30～12:20 (要相談)	学習支援(2年生体育「跳び箱、マット運動」、算数「かけ算」の指導の支援)	21日、28日は1名の方に、午後(14:40)まで希望(昼食有り)

<中学校>

支援活動No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
J13	第一中学校	住谷芳教諭	平成26年10月～平成27年2月	2	10	8:40～12:30	学習支援(特別支援学級の生徒の交流学級での指導の支援)	
J14	第一中学校	芳尾信一郎教諭	平成26年10月～平成27年2月	2	10	8:00～12:30	学習支援(1・2年生理科実験の準備・後片付け・指導の補助)	教育学系・理学系希望
J15	第一中学校	芳尾信一郎教諭	平成26年10月～平成27年2月	2	10	3:30～15:30	学習支援(1・2年生理科実験の準備・後片付け・指導の補助)	教育学系・理学系希望
J16	緑岡中学校	小林明子教諭	平成27年1月13日～2月	2	18	8:40～15:30	学習支援(1年生英語の指導の補助)	
J17	緑岡中学校	内海直樹教諭	平成26年11月3日～12月22日	3	17	8:40～15:30	学習支援(1～3年生数学の指導の補助)	
J18	緑岡中学校	内海直樹教諭	平成26年12月25日～26日	3	2	3:00～16:00	学習支援(1～3年生数学の指導の補助) 放課後の個別指導支援(1～3年生数学)	
J19	緑岡中学校	内海直樹教諭	平成27年1月5日～7日	3	2	3:00～16:00	学習支援(1～3年生数学の指導の補助) 放課後の個別指導支援(1～3年生数学)	
J20	緑岡中学校	内海直樹教諭	平成27年2月2日～20日 (2/11は除く)	3	15	8:40～15:30	学習支援(1～3年生数学の指導の補助)	
J21	第五中学校	小林毅教諭	平成26年10月20日～平成27年2月27日	3	10	8:40～15:40	学習支援(特別支援学級1～3年生数学・英語の指導の補助)	
J22	見川中学校	小林優人教諭	平成26年10～平成27年2月(週1回)	5	10	要相談	学習支援(技術の準備・片付け・作品製作の補助)	

水戸市学校支援活動 活動状況(前期募集分)

水戸市学校支援活動 活動状況(後期募集分)

支援活動No.	派遣先 (学校・園名)	活動の内容	活動人	支援活動No.	派遣先 (学校・園名)	活動の内容	活動人
K 1	吉田が丘幼稚園	園行事の補助(運動会の準備、誘導等)	1	K32	国田幼稚園	園行事の補助(親子レクレーションの種目の準備、補助)	1
K10	内原幼稚園	園行事の補助(さつまいも堀りの手伝い)	2	K35	国田幼稚園	園外保育の引率補助	2
K16	五軒幼稚園	パイプオルガン見学及びわかな保育園交流活動の引率及び保育補助	2	K37	国田幼稚園	園行事の支援(昔遊びの準備補助)	1
K17	五軒幼稚園	園行事補助(十二夜おにぎりパーティの保育補助)	1	K38	国田幼稚園	園外保育の引率補助	1
K24	笠原幼稚園	園行事の補助(ミニ運動会の準備、競技の補助)	3	K40	国田幼稚園	園行事の支援(卒園式準備)	2
K25	笠原幼稚園	園行事の補助(運動会競技の準備、補助)	1	K41	国田幼稚園	園行事の支援(お楽しみ会)	1
E 7	見川小学校	学校行事の補助(運動会の救護補助等)	1	K42	千波幼稚園	通常保育の補助	1
E10	赤塚小学校	学校行事の補助(運動会の競技補助、招集誘導、ライン引き、放送等)	4	K43	城東幼稚園	園行事の支援(親子スポーツ会)	2
E25	堀原小学校	合唱団の練習補助	1	K55	飯富幼稚園	園行事の支援(豆まきの準備・活動補助)	1
E29	新荘小学校	学習支援(算数:3年~6年)	1	E82	浜田小学校	学習支援(1年生体育跳び箱遊びの補助)	1
E38	双葉台小学校	校外学習(遠足)の引率補助	1	E91	柳河小学校	学校行事の補助(そば打ち体験・試食の補助)	2
E47	河和田小学校	学習支援(5年家庭科縫い物の補助)	1	E92	柳河小学校	休み時間(昼休み)における児童の遊び相手	2
E49	河和田小学校	校外学習の引率補助(2年遠足)	2	E93	柳河小学校	学校行事の補助(持久走大会での計測、誘導補助)	2
E50	河和田小学校	校外学習の引率補助(3年遠足)	3	E94	千波小学校	学校行事の補助(校内持久走大会の補助)	1
E53	三の丸小学校	校外学習の引率(1年遠足)	1	E95	千波小学校	学習支援(1年生算数「たしざん・ひきざん」の指導の支援)	1
E56	三の丸小学校	学校行事の補助(運動会の救護係の補助)	2	E97	吉沢小学校	学習支援(3年生の指導の支援)	1
E57	柳河小学校	学校行事の補助(運動会の準備係の補助)	2	E98	吉沢小学校	学習支援(3年生の指導の支援)	1
E61	浜田小学校	校外学習の引率補助(4年遠足)	1	E100	見川小学校	学校行事の補助(就学時健康診断の補助)	3
E62	浜田小学校	校外学習の引率補助(2年遠足)	1	E101	見川小学校	学習支援(2年生体育、算数「かけ算」の指導の支援)	1
E63	浜田小学校	校外学習の引率補助(1年遠足)	1	J13	第一中学校	学習支援(特別支援学級の生徒の交流学級での指導支援)	2
E65	浜田小学校	校外学習の引率補助(6年遠足)	3	J14	第一中学校	学習支援(1・2年生理科実験の準備・後片付け・指導の支援)	1
E72	浜田小学校	学習支援(児童看護等)	2	J19	緑岡中学校	学習支援・数学の指導の補助放課後の個別指導支援	2
J 1	見川中学校	学習支援(1年数学の授業の個別指導での支援)	1	J21	第五中学校	学習支援(特別支援学級1~3年生数学・英語の指導補助)	3
J 5	見川中学校	学習支援(理科の観察・実験の準備・片付け補助)	2	合計	学校園数12	活動数23	35
J 6	見川中学校	学習支援(技術の制作の準備・片付け、制作補助)	3				
J 7	第一中学校	合唱部の指導補助、ピアノ伴奏と合唱指導	2				
J 9	第一中学校	第1~3学年家庭科の学習支援	2				
J12	第五中学校	学習支援(特別支援学級1~3年生、主に数学・英語)	1				
合計	学校園数16	活動数28	48				
				平成26年度合計		活動数51 活動延べ人数83	
						学校園数(幼8 小14 中6)	28

茨城大学教育学部と水戸市教育委員会との地域連携にかかる学校支援活動報告書

水戸市教育委員会

1 支援活動の実施状況

区分	活動人数	活動日数	主な活動内容
幼稚園 7園	16人	39日	通常保育補助, 園行事(親子運動会, 餅つき等)支援 園外保育引率補助 等
小学校 11校	31人	102日	各教科の学習支援, 学校行事(運動会, 持久走大会等)支援, その他児童の支援 等
中学校 4校	18人	141日	各教科(数学, 理科, 家庭等)の学習支援, 部活動実技指導 等
計 22校(園)	65人	282日	

2 幼稚園, 小・中学校の支援活動実施後の感想, 要望

(1) 幼稚園

- ・ 芋掘りを子ども達と一緒にやったり, 芋を運んだりと力仕事も多かったのでありがたかったです。
- ・ 当日も支援内容を確認し合い, いろいろと細かな点に気付きながらよく支援を行っていただきました。
- ・ 職員だけで行事を実施するのは大変な中, 3名の学生に支援していただいたので, とても助かり, スムーズに楽しく活動することができました。また, 3名の学生と触れ合ったり会話を楽しんだりすることができて, 子ども達も満足したようです。次回の行事でもぜひ, 利用したいと思います。
- ・ 当日の朝の打合せのみだったにもかかわらず, 自分から進んで支援してくれました。また, PTA競技にも気持ちよく参加してくれました。
- ・ 一緒に遊んでもらったり, 歩くときの補助をしてもらったりと大変助かりました。
- ・ 体操教室では, 園児の補助もお願いしました。来ていただき大変助かりました。
- ・ 子ども達も, 3名のお姉さん先生と触れ合ったり, 会話を楽しんだりすることができ, 満足できたようでした。次回の行事でも, ぜひ利用したいと思いました。
- ・ 徒歩で県民文化センターまで, 観劇の引率補助をお願いしました。歩いている前後に気を配り, 安全に留意する姿が見られました。



【園外保育の支援】



【園外保育の支援】

(2) 小学校

- ・ 特別支援学級に通級する児童の指導の補助支援を行っていただき、児童が安定して生活できるようになりました。
- ・ 校内持久走大会では、伴走者として児童と一緒に走り励ましの声をかけながら、全児童の完走に寄与くださいました。
- ・ 来年も、春の運動会になる予定です。来年度も学生を派遣していただけることをお願いします。
- ・ 一人一人への声かけが適切で、子どもに寄り添った言葉がけができ、大変助かりました。またお願いしたいです。
- ・ 早朝から職員と一緒に準備、後片付けまで手伝っていただきました。また、本校は、児童数、職員数とも少ないため、2人で午前と午後で交代して準備係と得点係として支援していただき、大変助かりました。
- ・ 依頼した仕事に責任をもって、また、礼儀正しく気持ちよく児童に接してくれました。
- ・ 雨の降る寒い日でしたが、早くから登校してくれました。1年生の児童は、学生が来てくれるのを楽しみにしていました。自分から進んで活動をしてくれたので、児童ばかりでなく、職員もありがたく思っております。
- ・ 合唱団のパート練習等の指導をお願いいたします。音楽集会やクリスマスコンサート等でも伴奏していただき、素敵な演奏を発表することができました。



【学校行事の補助】

(3) 中学校

- ・ 進度に差が出てしまう単元の授業であったため、生徒一人一人に応じた指導を行う上で、今回の支援活動は非常に助かりました。支援活動に当たった学生の意識も高く、指示した作業を素早く的確に行っていました。今後も、支援活動を継続してほしいと考えています。
- ・ 短時間でしたが、英語や数学の学習支援を通して本人及びその他の生徒へも適切なアドバイスをいただき、学習への不安が少し解消することができました。今後も学生の学習支援をぜひお願いしたいと思っています。



【各教科の学習支援】

3 教育委員会からの感想、要望

大学等との連携による学校教育支援活動は、平成17年に協定を締結して以来、多くの学校(園)で様々な活動を行っていただいております。温かく子どもたちに関わっている姿、学校行事の準備や片付けに責任をもって熱心に活動している姿に、支援をしていただいた学校(園)からも、学生の学校支援が教育活動の大きな支えとなっているという感想をたくさんいただいております。

毎年、学校(園)からは数多くの支援活動の希望が出されており、学生の熱意と若い力に対する期待はますます大きなものとなっています。また、将来、教職を目指す学生の皆さんにとっては学校現場に関わる絶好の機会でもあり、支援に関わってくださった学生の皆さんからも、実際に子ども達と関わる中で大きな学びを得たという感想も受けております。

今後も、この学校支援活動に積極的に参加していただき、教育活動を支えてくださいますよう、よろしくお願いいたします。

(2) 茨城県内教育支援ボランティア

茨城県内教育支援ボランティアは県内の教育関連機関から随時募集を受付けています。依頼内容も様々ですので担当者が支援内容を確認し、教育支援ボランティアにふさわしい活動について、学生へ情報提供をしています。

今年度の県内教育支援ボランティアは、募集依頼件数 101 件、派遣件数 79 件、派遣延べ人数 449 人です。地域からの要望は毎年継続して募集依頼がくることも多くなってきました。(募集内容は 29～30 ページに掲載)

大学に近い学校では、学習支援の学生を柔軟に受け入れてくれる学校もあり、学生が授業の空き時間を利用してボランティア活動に参加することができるようになってきました。

平成 26 年度 県教育支援ボランティア派遣状況

派遣先	依頼件数	派遣件数	派遣人数	派遣内容
学校関係 (幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)	66	54	341	学習支援、行事支援(運動会・宿泊学習・遠足)等
教育委員会関係	15	14	67	学びの広場サポーター、理科観察実験アシスタント等
社会教育関係	7	6	19	茨城県警大学生サポーター、発明クラブアシスタント等
社会福祉関係	4	3	17	チャレンジ塾等
その他	9	2	5	スポーツ少年団指導、イベント補助等
計	101	79	449	

【事業担当】

・教育実践総合センター 五島 浩一 横瀬 晴夫 鯉渕 良子 小川 美穂

県内教育支援ボランティア参加状況（平成 26 年度）

No.	ボランティア名	募集先	参加人数
1	茨城県警察大学生サポーター	茨城県警察本部生活安全部 少年課少年サポートセンター	2
2	ミニバスケットボール指導者補助	新荘ミニバスケットボール スポーツ少年団	4
3	体育授業サポーター派遣事業	茨城県教育庁保健体育課	4
4	児童養護施設での学習指導	若草園	4
5	水戸少年少女発明クラブ	水戸市教育委員会 生涯学習課	10
6	高校学習支援員	茨城県教育委員会	4
7	学習支援	水戸市立渡里小学校	52
8	「運動会」補助	水戸市立渡里小学校	22
9	附属幼稚園柔道体験補助	附属幼稚園	5
10	スクール フェロー(SF)	茨城県県南生涯学習センター	9
11	学校図書館ボランティア	水戸市立国田小中学校	2
12	幼稚園遠足補助(5歳児)	附属幼稚園	6
13	教育ボランティア	ひたちなか市立高野小学校	4
14	ボランティアスクール	茨城県立水戸特別支援学校PTA	2
15	小美玉市小学生陸上記録会補助員	小美玉市教育研究会 保健体育部	4
16	カレーパーティー手伝い	附属幼稚園	1
17	幼稚園遠足補助(4歳児)	附属幼稚園	3
18	理科ボランティア	茨城県教育庁義務教育課	7
19	運動会ボランティア	那珂市立五合小学校	4
20	運動会ボランティア 看護	水戸市立渡里小学校	2
21	「ボランティア教室」	茨城県立勝田特別支援学校	3
22	水泳指導	水戸市立第二中学校	0
23	水泳指導	那珂市立瓜連小学校	0
24	学習支援	那珂市立横堀小学校	0
25	学びのサポート	那珂市立菅谷東小学校	0
26	「学びの広場」学生ボランティア	ひたちなか市立長堀小学校	2
27	学習支援	茨城県立水戸壘学校(寄宿舎)	1
28	ボランティア講座	水戸市役所障害福祉課	0

29	卓球コーチクリニック	スペシャルオリンピックス日本 茨城設立準備委員会	1
30	合唱部・吹奏楽部活動支援ボランティア	水戸市立五軒小学校	4
31	英会話支援ボランティア	水戸市立新荘小学校	4
32	英会話授業支援	水戸市立新荘小学校	2
33	読み聞かせボランティア	水戸市立新荘小学校	2
34	邦楽指導補助	邦楽サークル“風雅”	1
35	運動会ボランティア	水戸市立堀原小学校	5
36	学習支援	水戸市立堀原小学校	22
37	宿泊共同学習引率補助	附属中学校(1年生)	1
38	宿泊共同学習引率補助	附属中学校(2年生)	1
39	宿泊共同学習引率補助	附属中学校(3年生)	1
40	「学びの広場」サポーター	水戸市立渡里小学校	8
41	ボランティア養成講座	茨城県立水戸飯富特別支援学校	2
42	「学びの広場」サポーター	水戸市立飯富小学校	8
43	英語の学習活動支援	日立市立大久保中学校	1
44	ボランティア講座	日立市立日立特別支援学校	0
45	金管部への活動支援	水戸市立内原小学校	2
46	お預かりボランティア	水戸市立五軒小学校	0
47	遠足支援(3歳児クラス)	附属幼稚園	0
48	特別な配慮を要する児童の個別支援	ひたちなか市市毛小学校	1
49	水泳指導の補助	那珂市立五合小学校	1
50	ボランティア募集	特定非営利活動法人HAL	0
51	学びの広場サポーター	ひたちなか市立津田小学校	9
52	いきいきサマースクール 技術科ものづくり体験	ひたちなか市立津田小学校	7
53	第10回那珂市小学校陸上競技記録会係員	那珂市教育研究会	5
54	ふくしまキッズ北海道プログラム	NPO法人 ezorock	0
55	宿泊学習の活動支援	ひたちなか市立長堀小学校	2
56	5教科の学習支援	小美玉市美野里中学校	1

57	交流会補助	茨城県立水戸聾学校	6
58	「チャレンジ塾」学習支援	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会	11
59	あばれんぼキャンプ ボランティアスタッフ	特定非営利活動法人 野外遊び喜び総合研究所	0
60	金管バンドへの活動支援	水戸市立内原小学校	0
61	農山村ボランティア	特定非営利活動法人 地球緑化センター	0
62	東日本大震災シンポジウム	茨城県県南生涯学習センター	2
63	宿泊を伴う共同生活学習(宿泊学習)補助	那珂市立五台小学校	3
64	バーベキューのお手伝い	友の会 (友部特別支援学校保護者会)	0
65	教育活動支援ボランティア	結城市教育委員会	0
66	研究発表会模擬授業	那珂市立菅谷東小学校	25
67	校内持久走大会とその練習の補助	那珂市立菅谷西小学校	1
68	特別支援学級(知的)学級活動、自立活動補助	那珂市立菅谷西小学校	0
69	「ミシンぬいにチャレンジ」指導の補助	那珂市立菅谷西小学校	0
70	跳び箱の指導の補助	那珂市立菅谷西小学校	0
71	陸上記録会の指導補助	水戸市立堀原小学校	2
72	ミニハイキング引率	水戸市立内原小学校	5
73	かさまキッズモール2014 職業体験補助	一般社団法人 笠間青年会議所	2
74	キッズワールド2014	附属小学校	34
75	「うしく放課後カッパ塾」学習指導員募集	牛久市教育委員会 児童クラブ課	1
76	子どもホットラインサポートスタッフ募集	茨城県教育庁義務教育課	1
77	「渡里元気村」補助	水戸市立渡里小学校	11
78	学習補助	茨城県立結城第二高等学校	2
79	フライングディスク教室	茨城県障害者フライングディスク協会	2
80	「三反田小まつり」補助	ひたちなか市立三反田小学校	1
81	さつまいも掘り補助	附属幼稚園	13
82	冬休み学びの広場	下妻市立高道祖小学校	2
83	タイから転入した児童への学習支援	水戸市立常磐小学校	1
84	「サイエンスラボ」指導・補助	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	0
85	ウォークラリー補助	NPO法人 野外遊び喜び総合研究所	0

86	公開授業研究会の運営補助	附属中学校	8
87	校内持久走大会 係員	水戸市立渡里小学校	17
88	理科実験補助	水戸市立内原小学校	2
89	ウインターキャンプ・リーダー	野外教育研究財団 伊那谷地域開発研究所	0
90	生活科校外学習支援	水戸市立双葉台小学校	5
91	アートタワーみとスターライトファンタジー	水戸芸術館	2
92	合唱指導学生ボランティア	附属小学校	5
93	学習支援	ひたちなか市立三反田小学校	1
94	通級児童生徒第2回交流会支援	茨城県立水戸聾学校	15
95	スポーツ教室(なわとび)	東海村立村松小学校	7
96	特別支援教育対象児童の学習や学校生活のサポート	つくば市立二の宮小学校	3
97	障害者の外出支援ボランティア	水戸市役所障害福祉課	2
98	学習支援	那珂市立横堀小学校	0
99	研究会補助	附属幼稚園	6
100	中国からの転入生の学習支援	水戸市立常磐小学校	1
101	「わくわくわたりランド」	水戸市立渡里小学校	2
合計			449

3-2 ボランティア活動に参加した学生の感想

1. 水戸市学校支援活動

【幼稚園】

・運動会補助

実際に幼稚園での先生方の仕事や子どもたちの様子を見ることができる貴重な機会だったと思います。私が思っていたより、子どもたちはしっかりしていたし、先生はずっと動きっぱなし、声を出しっぱなしだなあと感じました。幼稚園の先生は体力勝負!という意味がわかった気がします。今回のボランティアを通じて、さらに幼稚園教諭という仕事に興味がわきました。また、機会があれば参加したいと思います。

・園行事補助

6月に教育実習に行き、小学5年生と活動していたり、特別支援学校の高等部生と交流した後だったので、幼稚園児はとても小さくて驚きました。それでもできることは多いし、とても元気でした。夏休み明けということもあって、みんなまっすぐ歩けていない感じでしたが、それでも、芸術館までの距離を往復できるんだということがすごいなと思いました。あまり幼稚園児と交流できることはないので、今回短い時間でしたが、子どもたちの様子を見ることができたのはとてもよかったです。

・保育園との交流活動の保育補助

今まで小学校しか見学、ボランティア活動をしていなかったため、新鮮な気持ちで活動することができた。この子はこのような特徴があるからこうしよう、と個々の特性に合わせて先生方が協力しながらサポートしている姿が印象深かった。

・運動会補助、遠足、学習支援

幼稚園ではいろいろな行事があり、様々な体験をすることが出来ました。私は幼児に包丁を持たせるのは絶対に危ないと思っていましたが、そば打ちの時は、みんな上手に切っていて感心しました。幼稚園が終わった後に、沢山の小物づくりをしたのも良い経験になりました。

・通常保育補助

幼稚園生と実際に長い時間かかわることにより、幼稚園児とかかわることの楽しさ、うれしさ、大変さなどを感じた。毎日のようにいろいろなことが起こる幼稚園での先生たちの対応や、幼稚園児の反応を生で見えて、感じることで勉強になった。自分がうまく対応できないことも多く、反省することも多々あったがとても良い経験になった。

【小学校】

・学習支援

4年次の教育実習からお世話になっている学校で、声をかけていただいてボランティアを行うことになりました。この他にも持久走大会や宿泊学習など様々な場面で子どもたちの様子を見ることができるのは、教育実習以上の成果があります。また、現場の先生方との信頼関係もある程度構築できるので、働く前に教員同士の関係や悩みについて聞くこともできます。

・就学時健康診断補助

小1の視力検査の経験はありましたが、5歳児への説明が難しく、本当に見えていないのか、やり方を理解していないのか迷うこともありました。1人ずつに付いて言葉をかけたり、表情を見たりしながら行いました。就学時健診の全体の動きもわかり、とても勉強になりました。

- ・校外学習の引率補助(1年遠足)

1年生のグループ活動と共に行動し、アクアワールドの中をまわり、楽しかったです。1年生の児童たちのグループ活動を手助けするのは大変なところもありましたが、その様子を知ることができたり、児童が興味を示すところを見ることが出来たりしてよかったです。目をきらきらさせて迎えてくれたので嬉しかったです。

- ・校外学習の引率補助

1年の時から現在まで、何度か校外学習引率ボランティアに参加させていただいたが、「この子を」担当して下さい」と言われ注意事項や性格、特徴などを教えていただき、任されたのがはじめてで、緊張したのと同時に嬉しかった。

- ・校外学習の引率補助

最初はどんな言葉づかいや雰囲気で接したらいいかわからず、戸惑いもあったが、なれてきたら自然と会話できるようになったし、小学生とかかわる機会がない私にとっていい経験になった。

- ・校外学習の引率補助

キッズニア東京、国会議事堂での遠足引率、児童看護。小学校6年生の引率で、列の乱れがあった場合の注意、自由行動の際の見回りなどを行った。

- ・合唱団の練習補助

今回は、小学校の合唱団の先生(音楽の先生)からお誘いをうけてボランティアのことを知り参加しました。私が授業や予定のない時に、練習を合わせて行っていただきました。1番の大きなステージはNHKコンクールの県大会で、児童たちは夏休みも毎日学校に来て練習しました。日に日に先生の指導を吸収して上達していく児童をみて、吸収する早さと柔軟性に驚きました。先生は「小学生だから・・・」と妥協することなく、発声や音楽の構成などについて指導していたので、小学生にも本格的な指導をどんどんしていきたいと思いました。

【中学校】

- ・学習支援

公立中学校の生徒の生活の様子などを知ることができ、私にとっても貴重な体験になった。中学生はあまり自分から積極的に話しかけてくれたりということは少ないが、話しかけるとたくさん話してくれる様子も伺えて、思っていたよりも関わりやすいと思った。

- ・学習支援

基本的に学習の進路が遅れがちな生徒を中心に支援をした。中学生だが、小学校の算数の範囲から復習を行い、ポイントをゆっくり繰り返し解説した。その際、分かりやすい言葉選びをするのが難しかった。公立の中学生とかかわる機会があまりなかったため、最初は緊張したが、生徒も大学生に慣れておらず、こちらから話しかけたり、言葉遣いに気をつけたりして早く馴染めるよう工夫することができた。

- ・学習支援

隣で支援しようとしても人によっては、うっとおしがったり、あまり話を聞いてくれなかったりするが、何気ない会話を通して話してくれるようになったので、コミュニケーションをとることの大切さを学んだ。回数を重ねるにつれ、生徒の方から話しかけてくれるようになるなど、うれしい体験ができた。

- ・家庭科学習支援

実際の授業を見られたり、生徒の様子なども知ることができるので、とても良かった。

2. 県内教育支援ボランティア

【スペシャルオリンピックス日本・茨城設立準備委員会卓球コーチクリニック】

スペシャルオリンピックスは、知的障害者のためのスポーツプログラムであることを初めて理解しました。その歴史は、ユニス・ケネディがデイ・キャンプをしたことが始まりだったことや、日本でも全国に組織が設置されることなど、広がっていることがわかりました。スポーツを通して子ども達の生きがいや精神的な安定をもたらす効果を期待するのは健常者にも通用するが、この取り組みではさらに深いねらいがあり、地域もまき込んだ取り組みにしていこうとするところが素晴らしいと感じた。今後関わっていきたいと思えるボランティアだった。

【理科実験準備・補助】

実験結果が正確にならないといけないということと、実際に適切な濃度に作るのが初めてだったので、難しかったです。薬品のことをほとんど知らない子ども達は、どれだけ危険なのかをわかっていないので、児童が扱っている時は、細心の注意を払わなければならないと学びました。

【茨城県警大学生サポーター】

警察官志望の人が多いが、2割が教員志望者となっていて学習支援活動や各学校における薬物乱用防止教室などでは現場の先生方の苦労や仕事を見る機会としても参考になります。不良少年という言い方は良くないのは十分承知していますが、意外とフレンドリーにコミュニケーションをとることができるなど発見が多くある活動です。

【水戸聾学校交流会支援】

障害があってもなくても、子どもたちの元気さや明るさは何も変わらないのだと改めて実感しました。多くの子どもたちとふれ合えて良かったです。

【学びの広場サポーター】

がんばった児童に対し、花まるをつけたら「算数で花まるをもらうのは初めて!!」と喜び、また一生懸命に課題に取り組み始めたという出来事が印象的でした。学ぶ意欲を保ち続けるために、ほめること、分かりやすく教えることが大切だなと思いました。

【チャレンジ塾】

勉強がしたい!という意欲にあふれていて、一緒に勉強することでこちらもモチベーションが上がり、「何でも教えてあげよう!!!」という気もちでいっぱいでした。どのような環境におかれていても、子どもたちの学ぶ意欲は大切にしなければならないと感じました。

【校内持久走大会係員】

持久走大会だったので、学校訪問などでは見ることができない児童たちの一生懸命に走る姿を見ることができて良かった。保護者の方とお話ししたり、近所の人たちとあいさつをしたりできて気持ちの良い時間を過ごすことができました。安全に気をつけて児童を守るには多くの人の力が必要だと思った。またボランティアに参加したい。

【運動会ボランティア】

今まで運動会は競技者としてしか参加をしたことがなかったので、先生方がどのように準備を行ったり運営したりしているのかを身をもって一部ではあるが体験することが出来、とても良い経験となった。

【ミニバスケットボール指導】

子どもが好きで、バスケットが好きだったので、このボランティア活動を始めました。約 1 年間、続けて活動してみて、自分に足りない部分や、やらなくてはならない課題と向き合うことが出来るようになったと思います。今後も、続けていき、子供達の成長を見ていきたいと思っています。

【第 2 回交流会補助】

今回のボランティアに参加して初めて「通級児童」という単語について理解した。普通学級の担任になる教員も聴覚障害のある子がクラスにいて、担任する可能性があるのだと。それを踏まえ、今回の経験はとても良い経験になったと感じる。グループの子に最初普通に話しかけてしまい反応が返ってこないことにとまどってしまったほどに聴覚障害のある子に対する接し方を知らなかった自分には非常に刺激的な体験となった。レクリエーションにおいても聴覚障害者に対する特有の工夫がなされていることに気づいた時は非常に感動したとともに、聴覚障害に対する支援の一端を知ることができた。

【英会話支援ボランティア】

小学校の英会話に自分が前に立つ立場として初めて直接触れ、小学生の英語力の実態や、英語に対する意欲の把握をすることができた。児童たちの英語力は高いほうだと話はきくが、それでも自分が思っていたより英語を活用することができていてびっくりした。また、専属の(?) 保護者のボランティアの方の指導法が毎回ためになり、勉強になっている。これらを次回に生かしていこうと毎回意欲が湧いてくる。

【宿泊学習補助】

宿泊学習は、教育実習でも絶対に経験することができないので、今回のような機会をいただくことができるととても嬉しかったです。児童とのふれあいはもちろんですが、先生の動き方や養教としての役割を学ぶことができました。また、小学校 5 年生の実態を知ることができて良かったです。

【学習支援】

学年が低い子だと、甘えてくる子が多かった。しかし、あくまでも、先生と生徒の関係でいることも大切だと考えると、ちゃんと勉強をやるように言わないといけないため、教育は難しいと感じた。

【陸上記録会指導補助】

児童たちが、それぞれの種目に別れて練習するというので、人手も足りず、特に技術的な支援が出来なくて、子どもたちや、先生に申し訳ない気持ちになった。勉強不足を感じつつ、指示もなかなかうまく通せず、苦勞することも多かった。けがだけはしないよう、十分に注意を払っていたが、種目のためか、足の痛みを訴える児童に対する効果的な支援が出来なかった。自分が手本として跳んでくれという要望もあり疲れることもよくあったが、また貴重な体験になったと思う。この記録会は延期になり、2 週間後に行われたが、その時まで続けて参加するれば良かったと思っている。

【キッズワールド 2014】

児童自らでつくりあげる形となっている運動会を初めて体験したが、特に上級生の成長した姿が際立っていた。教師は細かい指示を出さず、少しの援助しかしていなくても成り立ってしまう子どもの力に非常に感心した。

3-3 理科観察実験支援事業

水戸市教育委員会

1 事業の趣旨

小学校・中学校等における理科の観察・実験活動の充実を図るため、観察実験アシスタント（大学（院）生、退職教員、研究機関・企業等の研究者・技術者、地域人材など）が次の内容について支援を実施する。

- ①理科室及び理科準備室などの理科教育に使用する特別教室の環境整備
- ②理科の観察・実験活動に係る準備、調整、片付け
- ③その他、理科の観察・実験活動に充実に資すること

2 観察実験アシスタントの身分等

- ・ 理科支援員は水戸市の臨時職員となります。
- ・ 勤務時間は授業の打合せ、準備、授業支援、後片付け、理科環境の整備等を含みます。
- ・ 報酬は1時間当たり1,000円です。
- ・ 通勤手当は水戸市の旅費規定により支給されます。

3 派遣先学校の感想

- ・ 観察・実験等の準備や後片付けを支援していただき、大変助かりました。特に、薬品の調合や実験器具の準備していただいたことで、授業のスタートがスムーズに行えました。
- ・ 観察・実験の活動では、グループと一緒に入って、児童の様子を観察したり、アドバイスを言ったりしていただき、児童も安心して観察・実験に取り組むことができました。
- ・ 中学校では、特に新採教諭の授業における支援をお願いしました。準備・後片付け等も含め、きめ細かな支援をいただき、十分に生徒に向き合いながら指導にあたることができました。



【理科支援員の活動の様子】

平成 26 年度理科観察実験支援事業

	学校名	学年	学級数	時数 (1学級あたり)	支援員の所属・学年
1	渡里小学校	5年	3	12	教育学部・数学選修・2年
		6年	3	12	教育学部・特別支援・4年
2	吉田小学校	5年	4	12	教育学部・理科選修・4年
		6年	4	12	教育学部・理科選修・4年
3	石川小学校	5年	3	12	教育学部・特別支援・4年
		6年	4	12	理学部・生物化学・3年
4	堀原小学校	5年	2	12	教育学部・教育基礎・3年
		6年	2	12	教育学部・数学選修・4年
5	妻里小学校	5年	1	12	元理学部教員
		6年	1	12	元理学部教員
6	第二中学校	1年	1	28	理学部・生物化学・3年
		2年	1	28	教育学部・理科選修・4年
		3年	2	28	理学部・物理学・3年
7	赤塚中学校	1年	2	28	理学部・学際理学・2年
		2年	2	28	元理学部教員

3-4 附属学校園と教育学部の連携研究

附属学校園と教育学部の連携が求められています。茨城大学教育学部は2003年度より附属学校委員会を設置し、附属学校園と教育学部の情報交換と連携に努めてきました。2010年11月には、教育学部研究連携推進委員会を立ち上げ、連携研究の体制を整備するとともに、よりよい連携のあり方を模索しながら実践を重ねているところです。

(規則についてはP. □参照のこと)

ここでは、連携研究を推進するための研究補助制度「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の運用、連携研究の実施、附属学校フォーラムの開催について報告します。

1. 「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」制度と採択リスト

今年度も、附属学校と教育学部の教員の連携促進するために「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の公募を行いました。補助金額の予算が1年間で総額20万円(5万円×4件)でしたので、2014年度は7件の応募がありましたが、教育研究連携推進委員会で審査し4件を採択としました。(過去3年間分を次頁に掲載)

2. 連携研究の把握

2010年度以来、教育学部研究連携推進委員会規則に基づき、附属学校と学部との連携研究は活発に行われています。実践センターでは、双方の意向を考慮し、よりよい形で実施できるようにと連絡調整に努めています。内容的には、(1)大学・学部の教育研究への協力(2)大学・学部と附属学校の共同研究があります。

(1) 大学・学部の教育研究への協力

大学教員の研究に対する附属学校の協力とは、大学・学部教員が研究の一環として行う調査や研究授業などに、附属学校が協力した場合などです。研究と実践を結びつけるためには欠かせない連携研究の場となっています。

(2) 大学・学部と附属学校の共同研究

附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、研究発表会を実施しています。そこでは、大学・学部と附属学校との共同研究の一端が公開されます。研究の方向性や教材研究、授業づくりなどについて共同に研究していけることは、それぞれの持つ力を出し合い、高め合う貴重な場となっています。

(過去3年間分をP. □に掲載)

3. 附属学校フォーラムの開催

第1回附属学校フォーラムを2012年2月10日に開催して以来、第2回を2013年3月2日に第3回を2014年3月1日に、第4回を2015年2月28日開催しました。教育学部附属学校委員会と教育学部研究連携推進委員会、教育実践総合センターの3者の協力により、計画・運営されているものです。

(詳細はP. 60～61に掲載)

平成26年度茨城大学教育学部・大学院教育学研究科年報

平成24年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
藤井 とし子	附属小学校 附属中学校	学校教育 村野井均・小川哲哉・生越達・杉本憲子 実践センター 岡部千草 附属小 藤井とし子・小島貴志・栗原裕弥・比佐中 附属中 佐藤顕太郎・菊池康浩・船山知暁	電子黒板・デジタル教科書の活用に関する小・中学校連携研究
長瀬 敦 和田 美穂	附属特別支援 学校	障害児教育 新井英靖 附特支 長瀬敦・和田美穂・他PC教育工学担当教員	携帯情報端末を用いたコミュニケーション支援の在り方、電子黒板の効果的な利用の在り方
椎名 幸由紀	附属特別支援 学校	国語教育 昌子佳広 附特支 増子和男、鈴木栄子、椎名幸由紀、竹内彩子、全職員	特別支援学校における「読み聞かせ」に関する研究
高橋 文子	附属小学校 附属中学校	美術教育 美術教育 島 剛 寺本 輝正 附属小 附属小 住谷 浩 附属中 附属中 高橋 文子	図画工作教育および美術教育における素材を生かす教材の開発と実践

平成25年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
宇陀定司	附属小学校 附属中学校	数学教育 根本 博・小口祐一 附属小 飯村高志(代表) 附属中 宇陀定司(代表) 水戸管内 教育事務所指導主事 影山 敬久(代表)	算数・数学科授業の創造～実践指導モデル(案)の作成
横掘 冴子	附属小学校 附属中学校	理科教育 山本 勝博 附属中 船山 知暁 附属小 横掘 冴子 見川中学校 五十川 淳一	小・中学校教員と大学教員の連携を図り、情報交換と授業力向上を目指した「いばらき理科授業づくりML」の構築と運用
長谷川秀子	附属中学校	養護教諭 石原研治・瀧澤利行・斉藤ふくみ・廣原紀恵 青柳直子 附属中 長谷川秀子	iPS細胞による次世代再生医療を捉えた保健教育の新領域創出を指向した中学生のiPS細胞の知識・関心・理解
吉野 聡	附属小学校 附属中学校	保健体育教室 日下裕弘、渡邊将司、篠田朱音、吉野聡 スポーツコース 巽申直、勝本真、加藤敏弘 健康コース 松坂晃、高樫泰一、上地勝 附属中学校 木谷晋平、前堀景 附属小学校 小林克行、横山由里恵、湯瀬英寿	体育・保健体育教育における教育実習スタンダード策定の試み

平成26年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
廣木 聡	附属特別支援 学校	附属特別支援学校 廣木 聡 附属特別支援学校 小学部教員 国語教育 鈴木 一史	「児童生徒の心的安定、人間関係の深まり」のためのICT活用モデルの開発
佐藤裕紀子	附属小学校 附属中学校	家庭教育 佐藤裕紀子・塩谷敬子(渡里小学校・現職派遣) 附属中 高崎 昌己 附属小 中山 香理	家庭科の基礎・基本の定着を目指す施設分離型小中一貫教育の提案
猪井新一	附属小学校	英語教育 猪井 新一・齋藤 英敏 附属小学校 (1年)小島貴志・佐々木恵美子(2年)飯村高志 (3年)栲梗谷 美代子 (4年)湯瀬 英寿 (5年)比佐 中 (6年)栗原 裕弥	小学校外国語活動をより推進していくための実践的研究
工藤雄司	附属中学校	技術教育 工藤 雄司 附属中学校 山崎 修 技術職員 小祝 達朗	「技術科における巧緻性を育む新素材を用いた加工学習教材の開発」

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書	
研究代表者	所属 教育学部附属特別支援学校 氏名 廣木 聡
研究タイトル	知的障害児童の心的安定, 人間関係の深まりのためのタブレット活用実践
研究組織 (所属・氏名)	教育学部附属特別支援学校 廣木 聡 教育学部附属特別支援学校 小学部職員 教育学部学校教育教員養成課程(国語教育) 鈴木一史
研究の成果	<p>1. 研究の主旨</p> <p>近年, ICTを活用した知的障害のある児童生徒のコミュニケーション支援の実践事例が積み重なっている。しかし, 児童生徒の心的安定や人間関係の深まりにICTを活用する実践はまだ少ない。本研究では, タブレットを活用したコミュニケーションを基盤として, 知的障害児童の心的安定や人間関係の深まりを目指した実践について検討した。</p> <p>2. 実践</p> <p>(1) タブレットでの動画視聴をきっかけとする言葉によるやりとり</p> <p>児童が学習や活動の頑張りの成果として「タブレットに〇〇の動画を入れてください。」と教師に伝えてきた。言葉によるやりとりが難しい児童でも前向きな気持ちをもって教師に伝えることができた。頑張りを賞賛しタブレットにその動画を入れた。「よく頑張ったね。何が見たいかよく分かったよ。これからも頑張って, 見たい動画を教えてね。」と話しながら動画を見せた。児童はタブレットで動画が見られたことを喜び, 次も頑張ろうという気持ちが強くなった。同時に, 児童にとってこれらの体験は, 教師に伝えたことで見たい動画がタブレットに入ったという言葉によるやりとりの嬉しい成功体験となった。担任を含め関わった教師との信頼関係が深まった。</p> <p>(2) タブレットでの写真・動画撮影による気持ちの共有</p> <p>それぞれの児童が, 自分の感性で写真や動画を撮影し, その画像を友達や教師と見せ合うことで, 発語や書字に困難があってもその時々感性や思考を友達や教師と共有することができた。学校生活において, 友達や教師と感性や思考を共有できることは, 児童の心的安定や人間関係の深まりに貢献する。タブレットで画像を見せ合うことで, 「自分の気持ちを分かってもらおう」「相手の気持ちが分かる」方法の獲得と, 共感の経験ができた。タブレットを活用した双方向コミュニケーションへの前向きな気持ちをもつことができたと同時に, 双方向コミュニケーションのスキルが身についてきた。</p> <p>3. 研究成果</p> <p>タブレットを活用した言葉や画像によるコミュニケーションを基盤とした知的障害児童の心的安定や人間関係の深まりを目指した実践を積み重ねることができた。タブレットは大きな可能性をもつツールだと考えられるので, これからも新たな実践の可能性を探っていきたい。</p>
補助金の使途	タブレット端末 1 台購入

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書	
研究代表者	所属 家政教育教室 氏名 佐藤裕紀子
研究タイトル	家庭科の基礎・基本の定着を目指す施設分離型小中一貫教育の提案
研究組織	(所属・氏名) 茨城大学教育学部家政教育教室 佐藤裕紀子 (研究代表者), 塩谷敬子 (渡里小学校・現職派遣) 茨城大学教育学部附属中学校 高崎昌己 茨城大学教育学部附属小学校 中山香理
研究の成果	<p>本研究の目的は、家庭科における基礎・基本の定着に向けて、具体的な小中連携のあり方を提案することである。</p> <p>今年度は、実態調査により家庭科の基礎・基本の定着に向けた取り組みや指導上の課題を把握し (I), 具体的な手立てとしての「家庭科ふりかえりカルテ」を作成・実践し (II), 知識・技能の定着状況の調査によりカルテの効果を次年度に検証するための資料を得た (III)。</p> <p>実態調査の結果 (I) からは、実習指導の面では児童・生徒に個別に対応できないことや実習時間の確保が困難であるという問題を抱えているほか、基礎・基本の定着と密接に関わる他校種理解については、異校種間交流が有意に影響しているものの、実際には交流はほとんどなされていない実態が明らかになった。他校種理解に及ぼす異校種間交流の影響については、塩谷・佐藤 (2014) に発表した。</p> <p>また、家庭科の知識・技能の定着状況の調査 (III) からは、技能の種類によっては定着が不十分なものが見られることや、定着がはかれている技能においても、その技能を日常生活で活用するための知識は不十分であるなど、いくつかの課題が見出された。</p> <p>上記 I～III の実施概要は下記のとおりである。</p> <p>I 家庭科の基礎・基本の定着をめぐる実態調査</p> <p>2014 年 6 月、家庭科における小中 5 年間を見通した取り組みの実態と課題を明らかにすることを目的に、茨城県内の公立小中学校の家庭科担当教員 395 名を対象に質問紙調査を実施した (有効回答率 60.2%)。</p> <p>II 「家庭科ふりかえりカルテ」の作成と実践</p> <p>家庭科における小中 5 年間を見通した取り組みのための手立てとして、児童・生徒が基礎・基本の学習状況をふりかえることのできる「家庭科ふりかえりカルテ」を作成し、附属小学校及び近隣小学校 (渡里小、堀原小) の協力を得て、5・6 年生児童に各学期の終了時に記入してもらった。同カルテは次年度も記入してもらうことになっており、カルテ使用による基礎・基本の定着の効果については次年度に検証する予定である。</p> <p>III 家庭科の知識・技能の定着状況の調査</p> <p>2014 年 12 月から翌 1 月にかけて、次年度に「家庭科ふりかえりカルテ」の効果の検証をする際の比較資料を得ることを目的に、附属中学校 1 年生 158 名を対象に、同カルテを使用していない中学生の家庭科の基礎的な知識及び技能の定着状況をはかる調査を実施した。</p>

【文献】

塩谷敬子・佐藤裕紀子「家庭科教員の他校種理解に及ぼす異校種間交流の影響と小中連携の課題」『茨城大学教育実践研究』33, 2014, pp. 71-79

補助金の使途

A4 カラーペーパー（調査票用）

返信用封筒印刷費

後納郵便代金

板目表紙（カルテ作成用）

図書費（小中連携教育関連）

通信費（研究成果報告会案内通知送

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書	
研究代表者	所属 教育学部 氏名 猪井 新一
研究タイトル	小学校外国語活動をより推進していくための実践的研究
研究組織	(所属・氏名) 教育学部英語教育教室 猪井 新一 附属小学校 (5年) 比佐 中 教育学部英語教育教室 齋藤 英敏 附属小学校 (6年) 栗原 裕弥 附属小学校 (1年) 小島 貴志・佐々木 恵美子 附属小学校 (2年) 飯村 高志 附属小学校 (3年) 桔梗谷 美代子 附属小学校 (4年) 湯瀬 英寿
研究の成果	(平成 26 年度における本研究の取組) 1) 4月18日(木) 栗原裕弥教諭、学部授業「小学校英語 I」(猪井担当)に参加し、その後、学部と附属小の連携について打ち合わせをする。 2) 6月6日(金) 猪井が附属小の公開授業研究会に参加し、栗原教諭の授業を参観。 3) 6月26日(木)「小学校英語 I」において、内地留学生 榎田亜季教諭(北茨城市立中妻小学校)の模擬授業を、TV会議システムを用いて、附属小学校へ配信。その後、附属小との質疑応答。 4) 7月29日(火) 学部から猪井および齋藤が附属小を訪問し、附属小研究メンバー(上記7名) および研究主任安田教諭との、今後の研究進め方についての話し合い。 5) 12月18日(木) 猪井が附属小5年1組(久保田みどり教諭)のEタイム授業を参観し、その後、公開授業へ向けての話し合い(出席者:栗原教諭、久保田教諭、根本講師、安田研究主任、および猪井)。 6) 1月30日(金) 公開授業研究会に猪井が講師として出席。5年1組(久保田みどり教諭)の授業参観および、研究協議に参加。 以上、担任が中心となる E タイムの授業実践を進めてきたが、その観点から今後さらなる授業実践が必要であることの認識を、学部・附属小ともに深めた。(文責 猪井)
補助金の使途	ピクチャーカード(黒板用・グループ活動用) USB メモリー

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書		
研究代表者	所属	技術教育
	氏名	工藤雄司
研究タイトル 「技術科における巧緻性を育む新素材を用いた加工学習教材の開発」		
研究組織	(所属・氏名)	連携先：附属中学校
		技術教育・工藤雄司，附属中学校・山崎修
		技術職員・小祝達朗
研究の成果		
<p>中学校「技術・家庭科」技術分野の内容『A 材料と加工に関する技術』は、材料を加工する際に正確さ・緻密さを重視して指導することが求められる。材料としては木材を用いることが多いが、木材には繊維方向により切断方法を変更しないと正確な加工が難しい欠点がある。そこで、木材と同等の硬さと重さを持ち、繊維構造が存在しないことから正確に加工できる新素材「ケミカルウッド」を用いることで、加工技術の学習が容易にならないかと考えた。</p> <p>ここでは、附属中学校の研究主題「21世紀を生きるための「教養」を高める学びの創造」を念頭に、ケミカルウッドを使用した組木細工によるパズル製作実習教材の開発を行うこととした。</p> <p>本開発教材は、平成26年11月29日（土）開催の茨城大学教育学部附属中学校公開授業研究会の公開授業において使用した。</p> <p>○公開授業① 10：15～11：05</p> <p>教科・領域：技術・家庭科（技術分野），授業者：山崎 修，会場：技術室 公開学級：第1学年3組，単元・題材名：「組木パズルをつくろう」， 題材観：「組木パズルをつくろう」では、用意された製作図をもとにして材料取り，部品加工，接合を行う。加工精度が良くないとパズルとして組み上げることができない。そのため，工具を適切に利用し精度良く加工することが必要になってくる。生徒が完成した製品の精度に対して意識しながら集中して実習を行うことができるような学習にしたい。さらに制約条件のもとで，他者と協力して製作実習に取り組むことができるようにさせたい。</p> <p>○分科会 13：10～14：40</p> <p>教科・領域：技術・家庭科（技術分野），発表者：山崎 修，会場：技術室 助言者：太田雅彦（茨城県教育庁義務教育課），共同研究者：工藤雄司</p>		
補助金の使途		
試作用ケミカルウッド・加工工具・接合材料の購入		

平成24年度 学部・附属学校の連携の届け 一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	斉藤 ふくみ 教育保健	参観	小	養護実習の事前指導 視力検査・内科検診等の参観及び介助	H24.4.19～ 5.24	養教3年3名
2	橋浦 洋志 国語教育	授業実践	小 中	「ことばの力」演習 言葉のあり方について実践を通して考案する	H25.2.13 H24.9.27	教員養成課程・養護教諭養成 課程2年次全員 授業担当者
3	岡部 千草 国語教育	授業実践 参観	小	「授業づくり」にあたっての実践授業参観 授業実践について事前検討と授業づくり	H24.6.4	大学院生8名 委託生1名 教員2名 附属小 野村
4	岡部 千草 国語教育	研究	小	国語科教育実践「詩の授業」事後指導 大学での講話依頼	H24.6.11	大学院生10名 委託生1名 附属小 野村
5	金子 一夫 美術教育	卒業研究	小	卒業研究 美術作品の教育利用について の聞き取り調査	H24.7下旬	美術教育4年 附属小 住谷
6	金子一夫 美術教育	研究	小 中	「仏像の様式をキャッチフレーズ化する鑑賞 教育方法」について、児童・生徒を対象に 実践的に実証する	H24.7下旬	有田洋子(島根大学講師) 附小児童、附中生徒 附小 安田 附中 高橋
7	向野 康江 美術教育	授業参観	小	図工の授業見学 学部1年生より図工教育 に親しみを感じてもらう	H24.6.24	平成24年度入学の美術教育 1年生全員
8	山本 勝博 理科教育	授業実践	小 中	粒子概念の育成を図る授業実践 岩塩のへき開、食塩の微結晶の作成、観察	H24.9.1～ H24.10.31	大学院生1名
9	村山 朝子 社会科教育	実態調査 修論	小 中	修士論文作成のための調査 「写真資料の教材的效果」に関する アンケート調査	H24.9～10 H24.7	小2年生～6年生(希望) 中1年生～3年生 各学年1クラス程度・院生
10	勝二 博亮 障害児教育	研究	幼	ひらがな書字でつまずく子どもへの支援方法 を考えていく上での基礎資料の収集 ひらがな書字に関わりがあるとされる能力を見る課題	H24.9.27～ H24.11.7	特専1名 年少～年長
11	勝二 博亮 障害児教育	研究	幼	幼児の拗音の習得について 清音読み、清拗音読み、単文字RAN課題など	H24.10.24～ H24.11.6	特別支援教育4年1名
12	勝本 真 人間環境	授業実践 卒論・修論	中	卒論・修論に関する授業研究(教材・バレーボール) 独自の教材を作成・実施後、習得状況を調査	H24.9.6～ H24.10.30	附中生2年生・保健体育4年1名 院・保健体育2年1名
13	斉藤 ふくみ 教育保健	卒業研究	小 中	保健室機能と養護教諭の職務から生まれる 子供の安心感に関する研究 養教の言葉かけ、スキンシップに着目して分析	H24.10.1～ 30うち数日	養教4年1名
14	勝二 博亮 障害児教育	研究	小	文章読解力の発達の变化と語彙能力の調査 文章読解に躓く子どもへの支援を考える 資料とする。文章課題3題、語彙力検査32問	H24.11.2～ H24.11.16	特専1名・学生アシスタント3名 附小2・4学年各1学級
15	渡邊 将司 保健体育教育	研究	中	エネルギー消費量・身体活動状況・体格・体力追跡調査 身体活動量の調査・持久力・筋力の測定	H24.11月上旬 ～	弘原有輝 附中生 院生
16	村山 朝子 社会科教育	卒論研究	小	幼小連携活動調査 幼小連携活動の参観 と事後指導についての担当者への聞き取り	H24.11.6・7	社会4年1名
17	渡邊 将司 保健体育教育	研究	幼	瞬発力向上を目的とした運動遊びの介入研究 週1回30分運動遊びを行い、瞬発力向上効果を検証	H24.11下旬 ～H25.3月上旬	4・5歳児クラス対象 附属幼稚園教員
18	荒川 智 障害児教育	研究 授業実践	小	科研:ESDの視点による学習活動の構築 大学教員による理科の実験授業(サケを中心 とした教材横断的カリキュラムの一環として)	H24.12中旬	教育学部教員7～8名 対象:附小5年生、左記の授業の 流れに沿った社会科の授業も計画
19	岡本 研二 保健体育教育	実態調査	小	小学校体育における教師の言葉かけの実態調査 教師の言葉かけについての実状把握	H24.12.12	保健体育4年
20	吉野 聡 保健体育教育	研究	小 中	児童・生徒の運動欲求について明らかにし、発達 的特性を検討する。運動欲求調査を実施する。	H25.1.9～ 1.18	

21	吉野 聡 保健体育教育	研究	中	視空間認知及びボール運動の状況判断についての調査を行い、実態及び両者の関係を検討する。 視空間認知及びボール運動の状況判断調査	H25.1.10～ 1.18	保健体育4年5名
22	島田 裕之 美術教育	授業見学	小	図画工作科授業の見学 授業の指導案を作成するための参考として授業を見学する	H25.1.23	美術2年 12名 附属小6年1クラス
23	東條 吉邦 障害児教育	研究	幼	自己調整機能についての分析・検討 絵カードの課題、生活場面の観察・記録	H24.9.26～ 10.12	特別支援教育4年1名 附幼稚園3歳児、5歳児各15名
24	村山 朝子 附属幼稚園	授業実践	幼	自然物を使った染色を行い、豊かな体験の機会とする 草木を煮詰めたもので布を染める体験をする	H24.5.14	講師 山本勝博(理科教育) 附幼5歳児と保護者
25	村山 朝子 附属幼稚園	授業実践	幼	柔道体験により、日本の文化に触れ、身体を意識しながら動かしたり、礼儀を学ぶ機会とする	H24.5.21～ 6.18	講師 尾形敬史(保健体育) 附幼5歳児 2004年から実施
26	村山 朝子 附属幼稚園	事例研究 講師	幼	支援が必要な幼児のよりよい支援を探る 保育参観、事例検討会を通して実態把握や支援の方向性の検討	H25.1.22 H25.2.5	講師 新井英靖(特別支援) 附幼全教諭
27	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	公開授業研究会 「個々の力が発揮できる授業づくり」	H23.4.1～ H24.7.23	障害児教育 勝二博亮、松村多美恵 荒川智 附特支教員30名
28	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	公開研究会「特別支援教育(知的障害)におけるキャリア教育の在り方」	H23.4.1～ H25.3.31	障害児教育 新井英靖、東條吉邦 荒川智 附特支教員30名
29	増子 和男 附属特別支援学校	公開講座	特	検査法研修講座 「WISC—Ⅲ」概要と演習	H24.8.1 H24.8.22	障害児教育 松村多美恵 附特支教員8名
30	増子 和男 附属特別支援学校	公開講座	特	自立活動講座 「ムーブメント」講習・実技・演習	H24.8.2 H24.8.3	障害児教育 新井英靖 附特支教員9名
31	増子 和男 附属特別支援学校	公開講座	特 大学	「絵本の読み合い」公開講座	H24.8.27	附属教育実践総合センター 附特支教員25名
32	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	知的障害における基本運動の発達過程	H24.12.18～ H25.1.23	特別支援専攻科1名 附特支小学部教員10名
33	勝二 博亮 障害児教育	実態調査	特	「特別支援学校における歯科保健指導」について	H24.11.15～ H25.1.23	特別支援専攻科1名 附特支養護教諭
34	松坂 晃 保健体育教育	授業実践	特	特別支援学校中学部保健体育授業における柔道導入の課題	H24.7.4～ H25.1.23	保健体育 1名、スポーツコース 1名 中学部教員7名
35	松坂 晃 保健体育教育	実態調査	特	障害児における学校卒業後のスポーツ実践の現状と課題	H24.11.5～ H25.1.23	保健体育1名 附特支高等部教員1名
36	向野 康江 美術教育	実態調査	特	ディズニーと美術教育に関する研究	H24.11.29～ H25.1.23	大学院生1名 附特支小学部教員10名
37	松村 多美恵 障害児教育	実態調査	特	描画活動における発達過程に関する研究 （「塗り絵課題」の調査）	H24.7.17～ H25.1.23	特別支援教育1名 附特支教員2名
38	松村 多美恵 障害児教育	実態調査	特	過去経験と空想の出来事の語りの発達過程に関する研究	H24.9.4～ H25.1.23	特別支援教育1名 附特支教員2名
39	木村 勝彦 社会科教育	授業見学	小	教育学部1年生対象「社会科教育学入門」の一環として	H25.2.15	科目履修者27名
40	橋浦 洋志 昌子 佳広 国語教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員2名
41	木村 勝彦 社会科教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員3名
42	小口 祐一 算数	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員3名
43	山本 勝博 大辻 永 理科教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員3名

44	田中 健次 音楽	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員3名
45	向野 康江 図画工作	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員2名
46	吉野 聡 体育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員3名
47	生越 達 こころ	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H25.2.1	附小教員3名
48	長谷川 秀子 附属中学校	修論研究	中	修士論文作成における事例検討の協力 (事例検討会)	H24.4.5	養護教育専攻院生1名・指導教員 1名・附属学校養護教諭4名
49	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	附属中宿泊共同学習における補助 生徒看護の補助、救護の補助	H24.7.10~13 H24.7.14~16	養教4年 2名
50	増田 浩一 附属中学校	研修	中	不登校生徒等への今後の対応等について 全職員での研修 講話	H24.8.31	院・学校臨床 正保 春彦 岸 良範 附中教員24名・カウンセラー1名
51	小沼 信行 附属中学校	授業実践	中	「附中生のための科学の祭典」の学習支援	H25.1.22~2. 7 計4回	理科教育 山本 勝博 理科教育 学生のべ19名 附中教員14名
52	増田 浩一 附属中学校	授業見学 授業実践	中	今後の授業実践について事前検討と授業づくり 中学校1の授業見学と授業実践	H25.1.18 H25.2.6	英語教育 猪井新一 院生(英語)3名 附属中生
53	齋藤 崇 附属中学校	授業参観	中	今後の授業実践について事前検討と授業づくり 中学校1・2年生の授業見学	H25.1.8	英語教育 齋藤英敏 院生2名(英語)附属中生
54	杉本 憲子 学校教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会に向けての事前指導	H24.8.10	附中教員21名
55	鈴木 一史 国語教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	附中教員3名
56	村山朝子, 木村勝彦 社会科教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	11.5 附中教員2名 12.1 附中教員3名
57	小口 祐一 数学教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	11.5 附中教員2名 12.1 附中教員3名
58	山本 勝博 理科教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	11.5 附中教員2名 12.1 附中教員3名
59	藤田 文子 音楽教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	附中教員1名
60	金子 一夫 美術教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	附中教員1名
61	巽 申直 保健体育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	附中教員3名
62	工藤 雄司 技術教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	附中教員1名
63	木村美智子 家政教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	附中教員1名
64	齋藤 英敏 英語教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H24.11.5 H24.12.1	11.5 附中教員2名 12.1 附中教員3名
65	生越 達 学校教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者(道徳)	H24.11.5 H24.12.1	附中教員1名
66	杉本 憲子 学校教育	研究	中	平成24年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者(特別活動)	H24.11.5 H24.12.1	11.5 附中教員2名 12.1 附中教員1名
67	野村 仁 附属小学校	授業実践	小	わくわくキッズ・デーにおける書写指導の 工夫	H25.2.18	国語教育 齋木 久美
68	村山 朝子 社会科教育	授業見学	中	教職、社会科授業、教育実習に対する意識付け 社会科教育学入門の一環として授業参観・協議	H25.2.18	社会科教育専修1年次28名

平成25年度 学部・附属学校の連携の届け 一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	岡部 千草 教育実践総合センター	授業実践	小	大学院授業「国語科教育学演習Ⅱ」の実践化の場として4年生対象の授業を行うとともに、実際の児童の学習状況把握のため。	H25.5.20	岡部千草(授業者) 学生5名、院生1名、現職派遣院生1名
2	渡邊 将司 保健体育	研究	小	児童の体力に関連する誕生日と身体活動量の影響	H25.6下旬～ H25.7月上旬	保健体育4年1名
3	渡邊 将司 保健体育	研究	小	小学校1年生の体格、体力、身体活動の関係性を明らかにする	H25.6下旬～ H25.10下旬	千葉工業大学・引原有輝 ほか5名
4	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する	H25.7.1～ H26.3.31	勝二博亮 特別支援教育コース4年1名
5	斉藤 ふくみ 教育保健	研究	小	学校現場での子どもたちの食に関する実態や、それに即した食育について、養護教諭や栄養教諭の実践、連携の面について質問紙調査を行い研究する。	H25.9.1～ H25.9.30	斉藤ふくみ(指導教員) 養教4年1名
6	勝本 真 人間環境	研究 授業実践	中	バレーボールのアンダーハンドバスのドリル教材開発。	H25.10.21～ H25.11.15	勝本真 院2年生
7	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の意思決定過程に関する脳内処理過程を明らかにする。	H25.11.25～ H25.12.6	勝二 博亮 院2年生1名
8	吉野 聡 保健体育	研究	小	小学校4年生及び6年生を対象に、ゴール型の技能習得状況について調査を行う	H25.12.9～ H25.12.20	吉野聡 学生1名
9	吉野 聡 保健体育	研究	中	中学2年生を対象に、ゴール型の技能習得状況について調査を行う	H25.12.9～ H25.12.20	吉野聡 学生1名
10	野中 美津枝 家庭	研究 授業実践	小	卒論の研究テーマで「デジタル教材の授業研究」を実施するため	H25.12.20～ H27.3.31	学生1名、野中美津枝 附属小学校 中山香理
11	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の走・投運動動作に関する特徴を明らかにする。	H25.12.11～ H25.12.12	勝二 博亮 特別専攻科2名
12	巽 申直 人間環境	授業実践	中	修論研究のため 剣道授業実践	H25.11.7～ H25.12.9	院生1名
13	山崎 修 附属中学校	授業実践	中	技術・家庭科(技術分野)の材料と加工に関する技術の内容についての授業を第二学年のクラスで実践	H25.12.20	院生2年生1名 附属中学校 山崎修
14	野中 美津枝 家庭	授業実践	中	大学院生の修論のため授業実践 「魚の調理上の性質を知ろう」	H25.12.18～ H25.12.20	野中美津枝 院生3名
15	萩谷 正教 附属中学校	その他	中	附属中学校の公開授業研究会にボランティアとして学生に参加させることで、研究会の運営に携わらせるだけでなく、公開授業・分科会を参観させ、将来教員となる資質を高める。	H25.11.30	教育学部学生 国語教室3名 英語教室1名 家庭教室2名 技術教室4名 養護教室5名
16	高橋 文子 附属中学校	研究	中	茨城大学生のデッサン指導力向上と附属中学生のデッサン力向上のため集中授業実践 「デッサン指導実践演習」	H25.12.25～ H25.12.27	美術選修学生・院生 4名 附属中学生 3年生2名 2年生7名 1年生6名
17	高橋 文子 附属中学校	研究	中	美術教員を目指す1年生の意識向上と授業研究	H25.12.11	美術選修1年生 14名
18	高橋 文子 附属中学校	研究	中	美術教員を目指す2年生の意識向上と授業研究	H25.11.7	美術選修2年生 14名

19	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	養護実習事前指導のための演習科目「養護 実地研究入門」の講義と、講義に連動した学 校参観	H26.1.9, H26.1.27	養護教諭養成課程2年次 講義 32名 学校参観 25名
20	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	定期健康診断における補助	H25.4.11 H25.4.12	養護教諭養成課程4年次 2名
21	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	附属中学校1.3年宿泊共同学習における補助	H25.7.8～11 H25.7.16～17	養護教諭養成課程4年次 1名 院・養護教育専攻2年生 1名
22	渡邊 将司 保健体育	研究	小	小中学生の身体活動と心の健康との関連を明 らかにする。	H26.2月上旬	同志社大学 石井好二郎教授 ほか 9名
23	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	障害理解・教員の授業スキルの向上 講話「国語、算数・数学の体系的と指導方法」	H25.5.2	障害児教育 新井英靖 附属特別支援学校教員31名 近隣小学校教員3名
24	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	授業スキルの向上(オープンスクールに向けて) 授業観察、指導助言、授業についての研修会 実施	H25.7.1～ H25.7.23	障害児教育 東條吉邦 勝二博亮 新井英靖 附属特別支援学校教員31名
25	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	障害理解、地域の幼稚園、小・中学校、特別 支援学校におけるセンター的役割、指導スキ ルの向上	H25.8.7～ H25.8.8	障害児教育 新井英靖 附属特別支援学校教員8名 (公開講座参加者31名)
26	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	障害理解、地域の幼稚園、高等学校における センター的役割 公開講座「教育相談研修講座」の実施	H25.8.22～ H25.8.23	大学院教育学研究科 金丸隆太 附属特別支援学校教員31名 (公開講座参加者30名)
27	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	授業スキルの向上、本校の研究活動における 共同研究(公開研究会に向けて) 授業観察、指導助言、授業についての研修会 実施、公開研究会開催	H25.9.1～ H25.12.10	障害児教育 東條吉邦 勝二博亮 新井英靖 保健体育 渡邊将司 附属特別支援学校教員31名 (公開研究会参加者約70名)
28	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育の理解促進 講話「教科の特性を生かした学習支援のあり 方(算数)」	H26.1.21	障害児教育 新井英靖 (市町村教育委員会、幼稚園 小学校、中学校 60名)
29	鈴木 一史 国語教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員3名
30	村山朝子, 木村勝彦 社会科教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員3名
31	小口 祐一 数学教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員3名
32	山本 勝博 理科教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員3名
33	藤田 文子 音楽教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員1名
34	金子 一夫 美術教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員1名
35	巽 申直 保健体育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員2名
36	工藤 雄司 技術教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員1名

37	西川 陽子 家庭教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員1名
38	猪井 新一 英語教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員3名
39	橋浦 洋志 昌子 佳広 国語教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員2名
40	村山 朝子 木村 勝彦 社会科教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
41	小口 祐一 算数	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
42	山本 勝博 大辻 永 理科教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
43	藤田 文子 音楽教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
44	向野 康江 図画工作	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
45	渡邊將司 体育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
46	生越 達 こころ	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員1名
47	木村 勝彦 社会科教育	その他	小	「社会科教育学入門」の一環として授業を参観する。	H26.2.12	社会選修1年生24名 引率者 木村勝彦
48	向野 康江 美術教育	研究	小	美術教員を目指す意識向上と授業研究のため 授業参観を行い、その後学習案におこす	H26.1. H26.2.12	美術教育1. 2年生全員 附属小 安田和人, 住谷 浩
49	橋浦 洋志 国語教育	研究	小	「ことばの力」演習 言葉の在り方について実践を通して考案する	H26.1.22	教員養成課程・養護教諭養成 課程2年次全員 授業担当者
50	東條 吉邦 障害児教育	研究	特	知的障害児における見かけの泣きの理解に ついて	H25.9.9～ H25.10.18	障害児教育 東條吉邦 学生1名

平成26年度 学部・附属学校の連携の届 一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	渡邊将司 保健体育	研究	幼	附属幼稚園児の身体活動量および体力を調査する	H26.6～ H26.11.6	附属幼稚園長 村山 朝子 附属幼稚園副園長 塩田 智代
2	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する。	H26.6.5～ H27.3.31	特別支援教育4年1名
3	大辻 永 理科教育	授業実践	小	附属小学校5年生3クラスに対し、「ひびきの時間」において出前授業を行う。	H26.11.14	附属小学校(5年)海老名 育子
4	佐々木 忠之 情報文化教室	授業実践	小	図工教材製作における技術的支援	H26.9～ H27.3	技術教育教室 工藤雄司・野崎英明 附属小学校 安田和人
5	高橋 文子 附属中学校	授業実践	中	身体性・共同性を重視した中学校の陶芸制作・鑑賞の題材開発	H26.10.5～ H26.12.16	美術教育教室 島 剛 附属中3年生 157名
6	佐藤 隆 附属中学校	研究	中	教育の新領域として、「ips細胞を用いた新しい再生医療社会を真に理解し迎えるための教育プラン」の茨城大学モデルをつくり全国に発信する。	H26.4.1～ H27.3.31	国語教育 鈴木一史 理科教育 大辻永 教育保健 瀧澤利行 廣原紀恵 石原研治 人間環境 郡司晴元
7	増田 浩一 附属中学校	授業実践	中	お互いに自分の住んでいる地域・文化を紹介しよう	H26.10.15 H26.10.22	交換留学生 7名
8	増田 浩一 附属中学校	授業実践	中	パキスタンからの留学生との授業 英作文のアドバイス、スピーチ	H26.12.1～ H26.12.24	教育研修生
9	増田 浩一 附属中学校	授業実践	中	附属中生の英語授業においてTeam Teachingの実践	H27.2.10	教科教育専攻 英語教育院生
10	船山 知暁 附属中学校	研修	中	平成26年度理科授業づくり研究会「放射線研修」附属中学校・茨城大学・公立学校の教員で、授業をよりよくするために研修を行う	H26.5.10	理科教育 大辻永 山本勝博 実践センター 五島浩一 附中教員4名 院生4名
11	田中 正彦 附属中学校	授業実践	中	大学1年生に対して授業を公開し、中学校の社会科授業の展開、指導案についてなどを解説する。	H27.2	社会科教育専修1年次25名
12	田中 正彦 附属中学校	その他	中	大学2年生対象に教育実習についての事前指導。授業の作り方。指導案の書き方などを講義する。	H26.7.18～ H26.7.25	社会科教育専修2年次20名
13	田中 正彦 附属中学校	研究	中	附属中学校公開研究会にむけての授業、指導案検討	H26.10～ H26.11	社会科教育 村山朝子 附中教員2名
14	開田 晃央 附属中学校	研究	中	中学校国語科の研究推進・公開授業の授業づくり研究等	H26.4.1～ H27.3.31	国語教育 鈴木一史 附中教員1名
15	開田 晃央 附属中学校	研究 授業実践	中	授業の実践力を向上させる。3か月に2度授業実践、教材研究を持ち寄り、発表する。	H26.4.1～ H27.3.31	国語教育 鈴木一史 附中教員1名 公立学校教諭10名
16	高橋 文子 附属中学校	授業見学	中	美術専修授業「美術教育授業研究Ⅲ」において、美術教育を目指す意識向上と授業研究のため	H26.10.23	情報文化 島田裕之 美術専修2年生 14名
17	高橋 文子 附属中学校	授業見学	中	美術専修授業「美術教育授業研究Ⅰ」において、美術教育を目指す意識向上と授業研究のため	H26.12.9	情報文化 小泉晋弥 美術専修1年生 10名
18	片山 美千恵 附属中学校	研究	中	四附属学校園 養護教諭共同研究「養護」に関する質的研究	H26.4.1～ H27.3末日	教育保健 斉藤ふくみ 四附属学校園養護教諭4名

19	椎名幸由紀 附属特別支援学校	実践研究	特	小学部における「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の実践研究	H.26.4.1～ H27.3.31	障害児教育教室 勝二博亮
20	小松大介 附属特別支援学校	実践研究	特	中学部における「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の実践研究	H.26.4.1～ H27.3.31	障害児教育教室 新井英靖
21	茂木武啓 附属特別支援学校	実践研究	特	高等部における「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の実践研究	H.26.4.1～ H27.3.31	障害児教育教室 東條吉邦
22	渡邊鮎美 附属特別支援学校	実践研究 公開研究会	特	「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」 体育・保健体育での実践研究と成果の公開	H.26.4.1～ H27.3.31	体育教室 渡邊将司 こども教育宝仙大学 松原豊 県内外の教員140名
23	小室美歌子 附属特別支援学校	公開講座	特	人間関係を深めるムーブメントの実践研究と 成果の公開	H.26.8.5～6	障害児教育教室 新井英靖 教員10名参加
24	長瀬敦 附属特別支援学校	実践研究	特	知的障害児教育におけるICT機器活用の実 践研究	H.26.5.1～ H27.3.31	国語教室 鈴木一史
25	椎名幸由紀 附属特別支援学校	公開講座	特	幼稚園、高等学校における教育相談に関す る実践研究と成果の公開	H.26.8.12 H.26.8.29	学校臨床心理 金丸隆太 幼稚園教員25名 高等学校教員15名
26	廣木聡 附属特別支援学校	実践研究 研修会	特	小中学校特別支援学級におけるICT機器活 用の実践研究と成果の公開	H.26.6.1～ H27.3.31	学校臨床心理 金丸隆太 県内教員90名
27	茂木武啓 附属特別支援学校	実践研究	特	知的障害児の準備運動に関する実践研究 と成果の公開	H.26.5.1～ H27.3.31	体育教室 渡邊将司
28	和田美穂 附属特別支援学校	公開講座	特	知的障害児の国語教育に関する考察と成 果の公開	H26.7.23	国語教室 鈴木一史 県内教員40名参加
29	茂木武啓 附属特別支援学校	公開講座	特	知的障害児の体育に関する考察と成果の 公開	H26.7.23	体育教室 渡邊将司 附属特別支援学校教員10名 県内教員20名
30	勝二博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の肥満に関する検討	H26.10.1～ H27.3.31	特別専攻科 学生1名 特別支援学校 内田清香
31	勝二博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の柔軟性に関する調査研究	H26.10.1～ H27.3.31	特別専攻科 学生1名 特別支援学校 藤田宏樹 茂木武啓
32	東條吉邦 障害児教育	研究	特	障害児における自己の状態予測に関する研 究	H26.6.5～ H27.3.31	特別支援教育4年 学生1名
33	勝二博亮 障害児教育	研究	特	ダウン症児の発話明瞭度について、ひらが な文字の習得と発話明瞭度の関連について 検討する	H26.6.5～ H27.3.31	特別支援教育4年 学生1名
34	廣木聡 附属特別支援学校	公開講座	特	「教科指導における教材・教員開発のポイン ト」公開講座	H.26.5.7	障害児教育教室 新井英靖 附属特別支援学校教員30名 近隣学校園の教員20名
35	渡邊鮎美 附属特別支援学校	公開講座	特	「エピソード記録を通して子どもを質的に見 つめる」公開講座	H.26.6.4	障害児教育教室 新井英靖 附属特別支援学校教員30名 近隣学校園の教員20名
36	鈴木 一史 国語教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員3名
37	村山 朝子 社会教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員3名
38	根本 博 数学教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員3名
39	山本 勝博 理科教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員3名
40	田中 健次 音楽教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員1名

41	金子 一夫 美術教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員1名
42	日下 裕弘 保健体育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員2名
43	工藤 雄司 技術教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員1名
44	野中 美津枝 家庭教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員1名
45	齋藤 英敏 英語教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員3名
46	生越 達 青柳 路子 学校教育(道徳)	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員5名
47	杉本 憲子 学校教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員5名
48	小川 哲哉 学校教育	研究 授業実践	中	平成26年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員6名
49	村山 朝子 附属幼稚園	授業実践	幼	柔道体験により、日本の文化に触れ、身体を 意識しながら動かしたり、礼儀を学ぶ機会 とする。	H26.5.19 ～6.16	保健体育 尾形敬史(講師) 附幼5歳児と保護者
50	村山 朝子 附属幼稚園	事例研究	幼	保育参観、事例検討会等を通して支援の方 向性の検討	H26.5.13 ～H26.7.7	障害児教育 新井英靖(講師) 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 附幼全教諭
51	村山 朝子 附属幼稚園	研修会	幼	遊びやすい保育環境やエピソード記録の 書き方についての研修	H26.4.30 H26.7.25	障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭
52	村山 朝子 附属幼稚園	研究会	幼	講話 「子どもの豊かな活動を生み出す環境づくり」	H27.2.10	障害児教育 新井英靖(講師) 研究会出席者約200名 附幼全教諭
53	村山 朝子 附属幼稚園	研究会	幼	「子どもと共に遊びをつくる ー環境を見つめ直してー」 分科会の司会・グループ協議のまとめ	H27.2.10	教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 研究会出席者約200名 附幼全教諭
54	村山 朝子 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「思春期を見据えた幼児期の課題」	H26.6.30	教育学部長 生越 達(講師) 附幼全保護者
55	村山 朝子 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「造形遊びから造形活動へ～ 造形ワークショップに見る幼児の創造性」	H26.9.19	美術教育 片口直樹(講師) 附幼全保護者
56	村山 朝子 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「学びの芽をはぐむ自然体験」	H27.2.2	教育実践総合センター 五島浩一(講師) 附幼全保護者
57	木村 勝彦 社会科教育	授業参観	小	「社会科教育学入門」の一環として社会科の 授業の参観	H27.2.19	社会科選修1年次 24名
58	橋浦洋志 昌子佳広 国語教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校国語科教諭

59	村山朝子 木村勝彦 社会科教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校社会科教諭
60	根本博 数学教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校算数科教諭
61	大辻 永 理科教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校理科教諭
62	田中健次 音楽教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校音楽科教諭
63	大辻 永 理科教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校理科教諭
64	田中健次 音楽教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校音楽科教諭
65	向野康江 美術教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校図画工作科教諭
66	石島恵美子 家政教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校家庭科教諭
67	日下裕弘 大津展子 保健体育教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校体育科教諭
68	猪井新一 英語教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校Eタイム部員教諭
69	生越達 青柳路子 学校教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校こころの時間研究部員
70	島田裕之 美術教育	授業見学	小	美術教育授業演習Ⅲ 授業参観	H26.12.11	附属小学校 安田和人 美術選修2年 14名
71	向野康江 美術教育	授業見学	小	美術教育授業研究Ⅰ 授業参観	H27.2.4	附属小学校 高野敦史 美術選修1年 13名
72	野中美津枝 家政教育	実践研究	小	卒論の研究テーマで「デジタル教材の授業研究」を実施するため	H26.10.15	附属小学校 中山香里 家政選修4年 田中菜帆
73	橋浦洋志 国語教育	授業実践	小	「ことばの力」実践演習 ことばの力について実践を通して考察する	H27.1.21	学校教員養成課程・養護教諭養成課程 2年生全員
74	松本稔子 附属小学校	講師	小	「音楽集会」指導講評	H27.2.16	音楽教育 谷川佳幸

4 講演会・研修会

4-1 ICT活用講演会

期日 平成 26 年 8 月 25 日(月)

会場 模擬授業室

講師 小林道夫先生(神奈川大学附属中・高等学校教諭)

附属特別支援学校との共催により、「ICT活用講演会」を開催しました。神奈川大学附属中・高等学校教諭として情報教育に関するご研究に取り組み、その成果を数々の御著書を通じて発信しておられる小林道夫先生を講師としてお招きし、まずは「学校でのICT活用について」と題してご講話をいただきました。ICTをめぐる社会・教育の現状、PISA 調査の結果等から見えてくること、これからの学校におけるICT活用のあり方など、豊富なご経験等を踏まえて詳しくご教示いただきました。



次いで、附属特別支援学校の廣木聡先生より、特別支援教育の現場におけるタブレットPC(iPad)の活用事例をご報告いただきました。同校の児童・生徒たちが、授業や余暇の時間を通じて写真や動画の撮影・再生機能等を活用して楽しく学習・生活している様子を見ながら、特別支援教育の現場における活用の可能性を知ることができました。

最後に、小林先生のご指導の下、iPadを利用するワークショップを行いました。写真や動画の撮影、文字入力の方法など基本操作を確認した上で、iPad上でよく利用されている「KeyNote」というプレゼンテーションアプリを使って、参加者相互にインタビューをし合い、その人の紹介のページを作ってみようという演習に取り組みました。作業の時間があまり多くとれなかったのは残念でしたが、iPadの使用にあまり慣れていない参加者も、そうした作業を楽しく手軽にできるよさを体感することができたようです。充実した研修会になりました。



4-2 優秀教員による授業研究会

期日 平成 26 年 11 月 12 日（水）

会場 教育学部 D 2 0 1

講師 本宮博美先生（潮来市立日の出中学校教諭）

本年度の「優秀教員による模擬授業研修会」を上記の通り開催しました。講師（授業者）の本宮博美先生は、多年にわたる音楽科教育実践研究への取り組みなどを高く評価され、平成 25 年度に茨城県教育委員会より優秀教員「ティーチャー オブ ティーチーズ」表彰を受けておられます。この研修会では、中学校音楽科の模擬授業を公開していただきました。今回は音楽の授業ということで、センターの「模擬授業室」ではなく、室内を改装しステージを設けグランドピアノを設置した大教室（D201）で行いました。生徒役・参観者を含め 100 名以上の学生が参加し、大規模な研修会となりました。

授業の内容は、中学校の共通教材「赤とんぼ」を中心に扱われました。「赤とんぼ」の拍子、速さ、調、強弱、歌詞をさまざまに変えて歌ってみたらどうなるか、学習者が任意のグループを作って実際に取り組んでみることを通して、曲の特徴をとらえ直し、長く歌い継がれているこの曲の良さを再発見することがねらいです。先生は参観者への説明も交えながら丁寧に授業を進められ、その魅力的な語りかけに、生徒役の学生も参観者もぐんぐんと引き込まれていきました。充実した授業内容に、時間はあっという間に過ぎたように思われました。

授業後には、授業づくりに関わる先生のお取り組みのみならず、学校では生徒指導担当も務めておられることから、生徒との関わり方等に関わる貴重なお話をたくさんうかがうことができました。教員になられてから今日までの歩みをふりかえってのお話では、過去の思い出に感極まられた場面もありました。学生たちは、先生のお話を通して、教師としての喜び、教職に就くことのすばらしさを実感できたことと思います。



◆優秀教員による授業研修会アンケートより

1.本日の研修会で良かったところはどこですか？

- ・以前受けたような演奏や合唱するだけでなく、なぜ赤とんぼが歌い継がれているのか考えたり、拍子や速さを変えてみたりするとおもしろくなるのが体感できました。
- ・「考えさせる」「関わり合う」という授業実践の例を見られたことはもちろん、先生の今までの体験談、アドバイスを聞けて、とても良かった。
- ・生徒の自主性や感性を尊重した授業となっていた。自分の言葉で答えさせていた。自分も楽しく、生徒も楽しくということを引き、自分もそんな授業をしたいと感じた。
- ・先生の笑顔が、教材の良さを深めていると感じた。ゆったりとした空気で、あわただしさが無いにもかかわらず、内容の濃さがあったと感じた。
- ・色々な話の引き出しがあって、関連できるイメージがすぐに思い浮かんだので、考えやすかった。発表させる為に書かせるスペースや時間をとって良いと感じた。何故共通教材が使用されているのか、少しではあるけれど理解することができたと思います。
- ・授業のポイントも知ることができてよかった。(プリントを作り、書く作業をさせるということ)
- ・なぜ教師を続けることができたのかや授業をなぜやり続けることができるのかを姿勢で示していただいたので、とても勉強になりました。
- ・生徒を楽しませようとする工夫や授業展開や内容について、とても勉強になりました。知識や技術を身につけるだけではなく、自分自身で考え、他の人たちと共に学び合い関わり合うことがいかに大切にしていかなければならないのかということを知ることができました。
- ・先生が楽しそうなのが何より良かったと思います。先生の雰囲気、テンション、話し方など生徒をひっぱって行くような姿勢、すばらしかったです。正に女優。音楽は楽しいだけではいけない、というお話しでしたが、楽しくなければ始まらないとも思うのです。その点で、先生の“楽しい”を感じさせる力がすごいと思いました。

2.お気づきのこと(質問・希望・感想等)があれば記入してください。

- ・先生が涙しているところを見て、あんなに明るい授業をしていた先生でもたくさん悩み、つらいこともあったのだと感じました。私も今将来のことを迷っているところだったので、少し勇気が出ました。
- ・教師から生徒に教えるというよりも、生徒に気づかせたり、考えさせたりすることで、興味や関心が高まるのだと感じました。
- ・先生が終始にこやかな表情で明るい雰囲気がつくられていて、見ているこちら側にもそのよい雰囲気が伝わってきました。“自分が楽しいと思える授業”をつくれるようにすることを目指して頑張りたいと思いました。
- ・子どもと実際に関わっていくなかで、教師は学び、成長していくものなのだと分かりました。
- ・大学で学んだことが全てではない、ということを忘れずに、今後の教採の勉強に取り組みたいと思います。

4-3 教育学部委託生(前期)による自主研修会 —音楽—

期日 平成 26 年 6 月 25 日 (水)

会場 模擬授業室

6 月 25 日 (水) 2 講時、模擬授業室において、教育学部委託生 (前期) による自主研修会が行われました。模擬授業を行ったのは、内地留学で音楽教育を研修中の岩渕倫子先生 (桜川市立桜川中学校教諭) です。参加者は同じ前期の委託生や音楽教室の大学院生など 25 名でした。

中学校 2 年生音楽科「音楽のしくみを分析しよう」という題材での提案授業でした。「聴く視点」を明らかにし、構造の可視化を図ることによって楽曲の特徴を知り、分析的に音楽をとらえながら根拠をもって聴く力を高めることをねらった授業でした。異なる構造の二つの曲を比較し、その違いについてグループで話し合いを進めながらそれぞれの特徴をつかむという流れの協同的な学習が展開され、参加者自身がその有効性を実感することができました。構造の可視化を図る場面では電子黒板を活用し、ICT 機器の効果的な活用についても研修を深めることができました。



4-4 教育学部委託生(後期)による自主研修会 ―国語・英語・道徳―

期日 平成 26 年 12 月 10 日 (水)

会場 模擬授業室

教育学部委託生(後期)による自主研修会は上記の通り開催されました。今回は、国語、英語、道徳の授業のあり方について、それぞれ 20 分程度の授業(委託生および学生数名が児童・生徒役として参加する形での模擬授業)を通じた提案に基づき、検討が行われました。

国語では、ICT(タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書)を用いた「書くこと」の授業(小学校3年生想定)の一コマが提案されました。資料(写真)から見つけたことを書く活動において、どの学習者にも書きたい事柄が見つかるように、効果的にICTが活用されました。タブレットPCと電子黒板との連携システムを体験することができ、驚きの声も挙がっていました。

英語の授業(中学校2年生想定)はTTで行われ、電話を通じての会話場面が教師によって例示された後、それに基づき、学習者がペアになってオリジナルのスキットを作っていくという活動を中心に展開されました。学習者によって考案されたいろいろなスキットが披露され、楽しさあふれる時間になりました。

道徳(小学校5年生想定)では、「人と人の助け合い」「国際親善」をテーマに、読み物資料を通じてその問題を考えていく授業でした。読み物資料は実話に基づくもので、その場面の状況や世界の情勢などについて、ICTを用いて提示された補助資料によって丁寧な理解を促されたことで、状況を的確におさえ、その場での人々の行動やそれを支える考え方などについて、じっくりと考えを深めていくことができました。

委託生相互の研修ということですが、それぞれの教科に関わる大学教員や学部・大学院学生なども参加し、後の協議の時間も短いながらも充実したものとなりました。



4-5 茨城大学教育学部 第 4 回 附属学校フォーラム

期日 平成 27 年 2 月 28 日 (土)

会場 教育学部 D 2 0 1 教室

茨城大学教育学部主催による第 4 回附属学校フォーラムを開催しました。このフォーラムは、茨城大学教育学部教員と茨城県の教育行政、並びに附属学校教員や公立学校教員とが一堂に会し、組織的・一体的な取組による教育研究と教育実践を提案するとともに、参加者とディスカッションする場となることを意図して実施しているものです。今回のテーマは「21 世紀型スキルを身につける ICT 教育の現在形と未来形」とし、附属学校における ICT 活用の実践発表と、ICT を活用した授業づくりに先進的に取り組んでこられた方をお招きしたご講演を通して、参加者が研修を深める機会とすることがねらいでした。

参加者は、大学教員・学生・附属学校教員・公立学校教員・一般で 158 名となり、第 1 回以降少しずつではありますが増えてきています。特に、今回のテーマである「ICT を活用した教育」は、現在多くの関心を集めている分野であり、公立学校教員や教育委員会関係者等の参加が多く見られました。

開催に先立ち、三村信男茨城大学長が挨拶し、ICT という最先端の機器を活用しながら人と人とのつながりをつくっていくことが重要であることについて語りました。また、小野寺俊茨城県教育委員会教育長の来賓挨拶では、教育現場が今まさに転換期を迎えていること、教員養成の質を高めるために大学と教育委員会が連携を深めていくことが大切であることなどを述べられました。

続いて、附属中学校の久保鉄平教諭と附属特別支援学校の廣木聡教諭による「学校における ICT を活用した教育の実際」についての実践報告がありました。様々な授業の場面で、効果的にタブレット PC を活用した事例を発表しました。さらに、野中美津枝教育学部准教授による実践研究発表がありました。はじめてミシンを使う児童が、映像を見ながらミシンの使い方を学べるようにするための教材を作成し、タブレット PC を活用して附属小学校で実践した授業について、模擬授業を通して発表しました。

附属学校での実践発表に続いて、古河市教育委員会指導課長の平井聡一郎氏による「ICT 活用で、教師主導から学習者主体の授業へ」と題する講演がありました。この中で、ICT を活用することによって、教師は **Teacher** から **Facilitator** へ変わり、学習者主体の授業、テンポのある授業、全員参加の授業、動きのある授業が可能になると述べられ、ICT の導入による授業改善、学校改革が提言されました。参加者も実際にタブレット PC を操作し、その教育的効果を体験することもでき、ICT 機器を効果的に活用したこれからの授業の在り方について考える貴重な場となりました。



三村信男学長挨拶



小野寺俊県教育長挨拶



廣木教諭の実践報告



平井総一郎氏による講演



野中准教授の実践研究発表



模擬授業の様子

5 教育学部としての取組

5-1 茨城県教育委員会との連携活動

茨城県教育委員会との連携活動として教育学部教員は、毎年「茨城県教育研修センター」（笠間市）での各種研修事業に参画し、協力関係を続けています。これは平成 18 年 3 月に研修センター所長と教育学部長との間にかわされた「連携協力による覚書」に基づくものであり、教育研修センターで毎年おこなわれる「10 年経験者研修」をはじめとする様々な研修講座には、教育学部教員が講師として派遣されております。その際に附属教育実践総合センターは、大学側の連絡・調整の役割を担っております。平成 26 年の講師名と講座名は以下の通りです。

青柳直子（教育保健）新規採用養護教諭研修講座（平成 26 年 8 月 1 日）
 瀧澤利行（教育保健）10 年経験者研修講座（養護教諭）（平成 26 年 6 月 13 日）
 斉藤ふくみ（教育保健） 同上 （平成 26 年 10 月 29 日）
 守屋英子（学校臨床） 同上 （平成 26 年 7 月 9 日）
 教育相談に関する臨床研修（平成 26 年 8 月 28 日）
 小口祐一（数学教育）数学的活動研修講座（平成 26 年 8 月 20 日）
 渡邊將司（保健体育）スポーツ医・科学研修講座（平成 26 年 8 月 18 日）
 郡司晴元（人間環境教育）環境教育研修講座（平成 26 年 8 月 1 日）
 生越達（学校教育）10 年経験者研究講座（教育相談）（平成 26 年 7 月 31 日）
 教育相談（初級）研修講座（平成 26 年 7 月 4・8 日）
 教育相談に関する臨床研修（平成 26 年 6 月 25 日）
 丸山広人（学校教育）教育相談（中級）研修講座（平成 26 年 10 月 23 日）
 教育相談に関する臨床研修（平成 26 年 7 月 25 日）
 三輪壽二（学校教育）教育相談に関する臨床研修（平成 26 年 4 月 22 日）
 岸良範（学校臨床）教育相談に関する臨床研修（平成 26 年 10 月 30 日）
 新井英靖（障害児教育）10 年経験者研修講座（特）（平成 26 年 6 月 24 日）
 前川久男（障害児教育） 同上 （平成 26 年 11 月 12 日）

5-2 茨城県教育研究連盟との連携活動

茨城県は茨城大学、茨城県教育会、茨城県教育研究会、茨城県教職員組合など教育関係諸団体によって「茨城県教育研究連盟」を組織しています。連盟の任務は、研究集会の開催、教育情報の収集と集積です。当センターではこれらの関連資料を誰もが閲覧できるようにしています。また例年おこなわれる研究集会の分科会に助言者として、教育学部の教員が参加しています。

本連盟の今年の研究集会（第 59 回）は平成 26 年 10 月 18 日に茨城大学水戸キャンパスにおいて開催されました。

今年の研究集会には 536 名の参加者がありました。まず全体会では、茨城大学教育学部教授の橋浦洋志による講演「教師力としてのことばの力」が行われ、その後 22 の分科会に分かれて研究発表がなされました。分科会では 227 本の実践レポートが報告され、それにもとづいて熱心な討議が行われました。それぞれの分科会に助言者として参加した教育学部教員は以下の通りです。

国語教育	鈴木一史
外国語教育	猪井新一
数学教育	根本博
社会科教育	田中正彦（附属中学校）
理科教育	山本勝博 大辻永
生活科・総合・環境教育	杉本憲子 伊藤孝
技術教育	野崎英明
家庭科教育	野中美津枝
音楽教育	田中健次
美術教育	寺本輝正 向野康江
保健教育	古池雄治
体育・保健体育教育	大津展子
特別活動	菊池康浩（附属中学校）
道徳教育	青柳路子
生活指導	三輪壽二
進路指導	望月厚志
情報化と教育	本田敏明 矢崎寛子（附属中学校）
幼保小連携と保育問題	渡部玲二郎
特別支援教育	東條吉邦
教育条件整備と教育の問題	加藤崇英
個性の尊重とその評価	村野井均
人権保障と共生の教育	丸山広人

前年に引き続き、本年度も茨城県教育研究連盟の事務局長を当センター長が兼務しています。

5-3 JICAへの協力

5月15日に、JICAが主催する「授業改善を目指した学校運営」コースの研修員15名が、日本の教育制度、学習指導要領及び教員研修等に関する研修並びに大学付属校での学校運営に関する研修のため茨城大学教育学部及び附属小学校を訪れました。

午前中は、附属小学校において村野井 均 校長の挨拶の後、2年生の算数の授業を参観しました。ゲームを取り入れた活動から生まれた課題に対して、児童が積極的に取り組んでいる授業に関心をもたれたようでした。その後の懇談会では、授業づくりの実際や学習評価等についてたくさんの質問があり、研究主任の安田 和人 教諭から丁寧な説明がありました。続いて、6年生の理科の授業を参観しました。気体の実験結果に研修員も真剣に見入っていました。

午後は、大学に移動し、本学部加藤 崇英 准教授による「学習指導要領の概要」「日本における教員研修・教員養成」についての講義を受けました。講義の後の質疑応答では時間が足りなくなるほど熱心な話合いが行われ、日本の教育制度や学校運営における教員研修について研修を深められました。また、講義の合間に行った模擬授業室の見学では、学生が演習で利用する場面にも出会い、たいへん興味深く参観していました。

一日の盛りだくさんの研修を終了し、研修員は充実した表情で大学を後にしました。



附属小学校の授業参観



加藤准教授による講義



模擬授業室の見学



Japan International Cooperation Agency

独立行政法人 国際協力機構

中南米地域研修「授業改善を目指した学校運営」コース茨城大学訪問

2014 年 5 月 15 日(木)／茨城大学教育学部附属小学校・茨城大学教育学部

1. 目的：

〈茨城大学附属小学校〉

日本における小学校教育を理解するなかで、大学附属校での学校運営を理解する。

〈茨城大学〉

日本の教育制度概要を学習指導要領、教員研修・養成を中心に理解する。

2. 訪問者：計 19 名

- ・研修員 15 名：ポリビア、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、エクアドル、パラグアイ
- ・村田 敏雄 (JICA 本部、国際協力専門員：コースリーダー)
- ・福尾 朋洋 (JICA 筑波、研修担当職員)
- ・高濱 ひろ子 (研修監理員 兼スペイン語通訳)
- ・川嶋 慶子 (研修監理員 兼スペイン語通訳)

3. 日程及び内容

時間	プログラム	場所
8:00	JICA 筑波発	
9:00	茨城大学教育学部附属小学校 着	
9:10~9:20	1. 挨拶：茨城大学教育学部附属小学校長 村野井 均 様	茨城大学教育学部附属小
9:25~10:10	2. 算数科授業見学 附属小学校 2 学年 3 組 飯村 高志 教諭	
10:10~10:40	休憩 懇談 附属小学校 研究主任 安田 和人 教諭	
10:40~11:25	3. 理科授業見学 附属小学校 6 学年 1 組 栗原 裕弥 教諭	
	移動（茨城大学へ）	
12:00~13:00	昼食	茨城大学 A 2 2 2
13:00~13:10	4. 茨城大学教育学部長挨拶 尾崎 久記 教育学部長	茨城大学教育学部 A 棟 プレゼンテーションルーム
13:15~14:15	5. 講義：「学習指導要領の概要」 学習指導要領の作成プロセス、カリキュラム構成に関して 茨城大学教育学部 加藤 崇英 准教授	
14:15~15:15	休憩 施設見学（模擬授業室、図書館等）	
15:15~16:15	6. 講義：「日本における教員研修・教員養成」 茨城大学教育学部 加藤 崇英 准教授	プレゼンテーションルーム
16:20~	JICA 筑波へ	

5-4 平成 26 年度開講の茨城大学教育学部公開講座

講座名	講師	開催日	募集・受講 人数
新しいインターネットの 利用法(前期)	本田敏明	8/6(水)、8/7(木) 8/8(金)	募集人数 15 人 受講人数 11 人
新しいインターネットの 利用法(後期)	本田敏明	11/1(土)、11/2(日) 11/3(月)	募集人数 15 人 受講人数 13 人
インプロ入門	正保春彦 他学外講師 1 名	6/21(土)、6/28(土)	募集人数 25 人 受講人数 12 人
グループワークで学ぶ カウンセリング講座	正保春彦	8/2(土)、8/3(日)	募集人数 25 人 受講人数 14 人
心を育てるグループワー ク	正保春彦	8/21(木)、8/22(金)	募集人数 25 人 受講人数 12 人
教育と臨床に生かすイン プロヴィゼーション	正保春彦 他学外講師 1 名	9/20(土)、9/21(日)	募集人数 25 人 受講人数 24 人

5-5 県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

連携先

茨城県教育庁高校教育課・茨城県立鹿島灘高校・茨城県立結城第二高校

活動メンバー

大学院学校臨床心理専攻 10 名

学部生 12 名

養護教諭養成課程 6 名・家庭選修 1 名・社会選修 1 名・教育基礎選修 1 名・情報文化課程社会文化コース 1 名，人間環境課程環境コース 1 名・人文学部人文コミュニケーション学科 1 名

指導教員 5 名

守屋英子・金丸隆太・岸良範・正保春彦（学校臨床心理専攻）・三輪壽二（学校教育）

活動の内容・目的

平成 17 年度に開校したフレックススクール茨城県立鹿島灘高等学校（単位制・三部制）および平成 20 年度に同じくフレックススクールとして開校した茨城県立結城第二高等学校へ，生徒達の心のケアの一端を担うこと（気軽な話し相手となり，生徒達のストレスを軽減する）を目的とするキャンパスエイドとして学部生・大学院生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の 4 点である。

- (1) 生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動。
- (2) 「心理学」（必修授業）授業時に補助として参加するなど学校カウンセリングに関わる活動。
- (3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会等への参加。
- (4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を，毎回校長に提出する。

今年度の活動

鹿島灘高校では前期 8 名，後期 6 名が，結城第二高校では前期 6 名，後期 4 名が，週に 5 日交代でそれぞれの高校へ行きキャンパスエイドとして活動した。今年度は学部生のキャンパスエイド希望者が多かったため，同じ曜日に 1 週間交代で活動をするという曜日があった。

毎月最終週にミーティングを持ち，1ヶ月のキャンパスエイド活動を振り返った。各自の活動を報告し，活動上疑問や困難を感じることにについて全体で話し合った後，高校ごとに分かれてエイドの居る部屋に来室する生徒についての情報を共有し，生徒理解と対応を考える時間を持った。

また，昨年度戦略的地域連携プロジェクトの一環として行ったキャンパスエイドの他校訪問について，今年度も鹿島灘高校・結城第二高校の間で，キャンパスエイドが他校を訪問する機会を持つことができた。鹿島灘高校キャンパスエイド 4 名が結城第二高校へ，結城第二高校キャンパスエイド 7 名が鹿島灘高校へ行き，1 日エイドとして活動した。

活動の成果・意義

フレックススクールに入学してくる生徒は，中学時代にいじめや不登校を経験していたり，何らかの発達障害（またはその傾向）を持っていることも多く，そのために対人関係上の困難を抱えていることが多い。スクールカウンセラーに話すのは敷居が高いが，年齢が近いキャンパスエイドに話を聞いてもらいたくて来室する生徒，教室に居場所がなくてお昼休みや空き時間にキャンパスエイドが居る空間に居場所を求めて来室する生徒など，高校内にキャンパスエイドがいることで，生徒達に安心感と居場所を与えることができたと考えられる。

キャンパスエイド達は高校での活動と毎月のミーティングで，エイド室での活動の仕方，生徒への接し方などを自分なりに考えていった。また他校を訪問したことにより，学校の特色によってそれぞれ違いがあることも学ぶことができた。エイド室を訪れる生徒達に対する理解や，対応の仕方などを学び，対人援助についての理解を深めることができたと考えられる。

5-6 第 6 回茨城地域教育臨床研究会(予定) 大学生・大学院生による中学・高校でのメンタル・サポート

【日時】平成 27 年 3 月 26 日(木) 14 時～17 時

【場所】茨城大学教育学部 B 棟 B205 教室

【プログラム】

1. 開会行事

挨拶

茨城地域教育臨床研究会 代表	守屋英子
茨城大学教育学部地域連携委員会 委員長	小川哲哉先生
茨城県教育庁高校教育課 課長	横島義昭先生

(フレックス高校とキャンパスエイド活動について)

2. 中学・高校でのメンタルサポート活動報告(キャンパスエイドによる発表)

- (1) 茨城県立鹿島灘高校におけるキャンパスエイド活動
- (2) 茨城県立結城第二高校におけるキャンパスエイド活動
- (3) 茨城県立荃崎高校におけるキャンパスエイド活動
- (4) 茨城大学教育学部附属中学校におけるキャンパスエイド活動

3. グループディスカッション 1 (役割別グループ)

4. グループディスカッション 2 (混合グループ)

5. 総合シェアリング



←結城第二高校キャンパスエイド室



第 5 回茨城地域教育臨床研究会 →
キャンパスエイドの活動報告

5-7 教育学研究科 臨床心理相談室活動報告

1. 平成 25 年度・平成 26 年度（2 月末現在）の相談活動

平成 25 年度および平成 26 年度の相談状況は以下の表 1～表 3 のとおりであった。但し平成 26 年度の数値はすべて平成 27 年 2 月末日のものである。

表 1 平成 25・26 年度相談件数

年度	新規件数	継続件数	総件数	延べ来談件数	延べ面接人数
H25	65	98	163	1,357	2,112
H26	69	123	192	1,391	2,112

表 2 平成 25・26 年度新規相談内訳

年度	心理面接	親子面接	コンサルテーション	合計
H25	13	43	9	65
H26	12	53	4	69

表 3 平成 25・26 年度新規相談年齢別構成

年度	幼児	小学生	中学生	高校生	専門・大学生	成人	コンサルテーション	合計
H25	4	22	7	7	4	12	9	65
H26	6	23	13	8	3	12	4	69

2. 過去 5 年間の相談実績の推移

過去 5 年間の相談実績は表 4 のとおりである。また、過去 5 年間の新規相談内容の推移は下図および表 5 のとおりである。但し平成 26 年度は平成 27 年 2 月末日までの数値である。

表 4 過去 5 年間の相談実績

年度	H22	H23	H24	H25	H26
新規相談件数	49	38	58	65	69
延べ面接回数	1,977	1,946	1,714	2,112	2,112

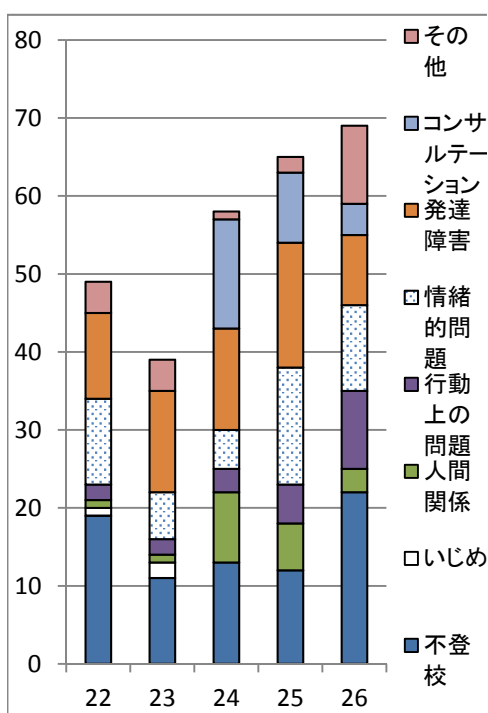


表 5 過去 5 年間の新規相談内容

6 資料

6-1 茨城大学教育実践研究第 33 号原稿執筆者

教員養成のための平和教育への視座……………橋浦洋志
 草野心平「春のうた」の解釈と授業実践 中学校編……………川嶋秀之・岡部千草
 協働的学習による説明的文章読解の授業開発

——『オオカミを見る目』の対比表現の比較読みを中心として—— ……鈴木一史・開田晃央
 ケミカルウッドを用いた緻密な加工技術を習得するための授業実践

……………高橋将太郎・保坂和樹・川崎裕典・鈴木渉・田中浩之・工藤雄司
 太陽光発電による LED 照明を活用した生物育成教材の開発……………田中浩之・山口祐樹・工藤雄司
 家庭科教員の他校種理解に及ぼす異校種間交流の影響と小中連携の課題…塩谷敬子・佐藤裕紀子
 小学校外国語活動において、教師はどのような時に成功感と失敗感を感じているか……………猪井新一

Ireland Studies as Promoting Cross-cultural Understanding

……………Patrick SAVAGE and Junichi KIMIZUKA

The Role of Pictures in Children's Comprehension of Repeated Read-Alouds of Picture Books in an EFL
 Setting……………Hidetoshi SAITO, Yumi KASAKURA, Miyuki SATO, and Mayumi YAGIOKA

大学生の予防接種行動と生活習慣との関連 —教育学部生を対象として—

……………郷木義子・廣原紀恵・森 宏樹
 公共性を考える道徳教育実践—— 高校道徳の事例から——……………小川哲哉・渡邊英一・渡邊哲郎
 討論活動を通じた道徳教育の可能性 —討論型の国語教育実践の分析から—……………井純一・小川哲哉
 知的障害児の運動スキル評価の試み ………………松坂 晃
 特別なニーズを持つ児童への通常学級における支援

— 特別支援教育支援員としての立場から — ………………打越由美子・丸山広人
 思春期における自立の支えとなるもの

— マンガ・アニメ・ゲーム等にハマという観点から — ………………枝井栄利子・守屋英子
 高校生の登校回避感情からの回復の過程 —— 複線径路等至性モデルによる分析 ——

……………伊藤寿美・正保春彦
 高等部総合的な学習の時間の取り組み①

…— 学校オリジナルキャラクターの作成と活用 —廣木聡・渡邊鮎美・椎名幸由紀・東條吉邦
 高等部総合的な学習の時間の取り組み②

— 外国新発見！日本再発見！— ………………渡邊鮎美・廣木聡・椎名幸由紀・東條吉邦

6-4 茨城大学教育学部教育研究連携推進委員会規則

(平成 22 年 11 月 11 日規則第 97 号)

(設置)

第 1 条 茨城大学教育学部（以下「本学部」という。）に茨城大学教育学部教育研究連携推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、学部、大学院、附属教育実践総合センター及び附属学校が一体となり、かつ、必要に応じ学内外の関係機関とも連携し、本学部における教育実践に関する教育研究を推進するため、必要な業務を行うことを目的とする。

(審議事項及び業務)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項の審議と業務を行う。

- (1) 学部、大学院、附属教育実践総合センター及び附属学校との教育研究上の連携に関する事項
- (2) 学内及び学外の関係機関との教育研究上の連携に関する事項
- (3) プロジェクトメンバーのコーディネート
- (4) 研究成果の公表
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 附属教育実践総合センター長
- (2) 副学部長（附属学校担当）
- (3) 附属教育実践総合センター教員（客員教授を含む。）から 1 人
- (4) 附属学校委員会から推薦された附属学校教員 各校 1 人
- (5) その他学部長が必要と認めた者 若干人

2 前項第 3 号から第 5 号までの委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、附属教育実践総合センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集しその議長になるとともに、業務を総括する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ会議を開くことができない。

- 2 委員が、やむを得ない事由により出席できないときは、委員長の承認を得て、代理者を出席させることができる。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときには、議長の決すところによる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、教育学部事務部において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 22 年 11 月 11 日から施行し、平成 22 年 9 月 15 日から適用する。